



取扱説明書



 ご使用前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

YSF860
YSF860B
YSF1070
YSF1070T
YSF1070TB

はじめに

ヤマハ除雪機をお買いあげいただき、まことにありがとうございます。

本書は、商品の安全性に関する情報および商品の正しい取り扱い方法と簡単な点検・整備について記載してあります。

万一取り扱いを誤ると重大な事故やケガ、故障の原因となります。

あなた自身の安全と環境や住民の方との調和のために、また商品の性能を十分に発揮させるために、商品の取り扱いを充分ご存じの方も、この商品独自の装備、取り扱いがありますので、ご使用前に必ず本書を最後までお読みください。

なおご使用时には本書を携帯し、安全に商品をご使用くださいますようお願い申し上げます。

ご不明な点や不具合なところがありましたら、お早めにお買いあげのヤマハ販売店にご相談またはお申しつけください。ヤマハ販売店では、お客様のよきアドバイザーとしてご来店をお待ち申しあげております。

要 点

- この取扱説明書のイラストは、主に YSF1070T を使用して作成しています。
- 仕様変更などにより、本書のイラストや内容が一部本機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- 本書は大切に保管し、本機を貸与または譲渡される場合は必ず本書を添付してください。
- 将来、廃棄される場合およびバッテリー、廃油などの廃棄処理をされるときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店に相談してください。
- ヤマハ商品には保証書をおつけしています。

保証書もよくお読みいただき、裏面の販売店・捺印をご確認のうえ、大切に保管してください。

YSF860/YSF860B/YSF1070/YSF1070T/
YSF1070TB

取扱説明書

第 1 版 2022 年 4 月

ヤマハモーターパワープロダクツ株式会社の

書面による許可なしに転載または

無断使用することは禁止されています。

© 2022 ヤマハモーターパワープロダクツ株式会社

Printed in Japan.

重要なマニュアル情報

本書では、正しい取り扱いおよび点検・整備に関する重要事項を下記シンボルマークで表示しています。



安全に係る注意情報を意味しています。

危険

取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る危険が差し迫って生じると想定される場合を示してあります。

警告

取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。

注意

取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要 点

正しい操作の方法や点検整備上のポイントを示してあります。

目次

安全にお使いいただくために	1-1	エンジンのかかり具合および	
安全のために		異音の点検	3-5
必ず守っていただきたいこと	1-1	排気の状態の点検	3-6
重要ラベル	1-6	オーガクラッチ、	
各部の名称と取り扱い	2-1	走行クラッチの操作具合の	
各部の名称	2-1	点検	3-6
各部の取り扱い	2-21	シュータの作動具合	3-6
エンジンスイッチ	2-21	オプションブレードのゆるみ、	
油量警告灯	2-22	ガタの点検	
スロットルレバー	2-22	(YSF860B/YSF1070TB)	3-6
変速レバー	2-22	前日の作業で異常が認められた	
シュータ方向調整レバー	2-23	箇所の点検	3-6
シュータデフレクタ			
調整レバー	2-23	正しい運転方法	4-1
走行クラッチレバー	2-24	エンジンの始動	4-1
旋回スイッチ (YSF1070T/ YSF1070TB)	2-24	エンジンの停止	4-3
オーガクラッチレバー	2-24	移動をするとき	4-3
オーガハウジング		進行方向を変えるとき	
高さ調整レバー	2-25	(YSF1070T/YSF1070TB)	4-4
燃料タンクキャップ	2-25	除雪作業をするとき	4-5
燃料残量計	2-25	デッドマンクラッチ	4-8
燃料コック	2-25	走行クラッチレバーと	
スキッド	2-26	オーガクラッチレバーの操作	4-9
スクレーパ	2-27	除雪作業を停止するとき	4-10
シャーボルトガード	2-27	エンジンを停止して	
スノーバー (雪かき棒)	2-29	移動するとき	4-11
作業灯	2-29	オプションブレードの操作	
運転する前に点検しましょう	3-1	(YSF860B/YSF1070TB)	4-12
使用前点検	3-1	点検と整備	5-1
燃料の点検	3-2	点検のおすすめ	5-1
エンジンオイルの点検	3-3	サービスツール	5-1
変速機 (HST) オイルの点検	3-4	使用前点検	5-2
オーガの点検	3-5	定期点検	5-2
ハンドルのゆるみ、ガタの		点検項目	5-3
点検	3-5	エンジンオイルの交換	5-6
スタータモータの作動具合の		変速機 (HST) オイルの補給	5-8
点検	3-5	ウォームケースオイルの交換	5-9

目次

スパークプラグの点検・清掃	5-9
フューエルストレーナの清掃	5-12
スキッドの調整	5-13
オーガシャーボルトの交換	5-15
インペラシャーボルトの交換	5-17
スクレーパの調整	5-19
オプションブレードの スクレーパの調整 (YSF860B/YSF1070TB)	5-20
トラック（クローラ）の張りの 点検と調整	5-21
点検のしかた	5-21
調整のしかた	5-21
バッテリー液の点検	5-23
ヒューズの交換	5-24
スプロケットピンの交換	5-25
各部の給油	5-27
短期保管・長期保管	6-1
短期保管	6-1
長期保管	6-5
不具合時の対応	7-1
故障と対策	7-1
仕様諸元	8-1
YSF860	8-1
YSF860B	8-3
YSF1070	8-5
YSF1070T	8-7
YSF1070TB	8-9
ユーザー情報	9-1
本体識別ラベル	9-1
お客様ご相談窓口のご案内	10-1
索引（さくいん）	11-1

▲安全にお使いいただくために

1

安全のために必ず守っていただきたいこと

- ご使用前に必ず取扱説明書および本機に貼付しているラベル類を最後までお読みいただき、正しい操作方法をよくご理解ください。

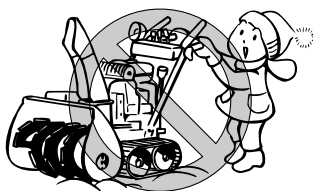
1. 取扱説明書



- 使用前点検、定期点検を必ず行ってください。



- 子供や正しい操作方法を知らない人には操作させないでください。



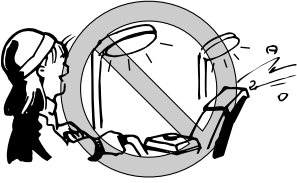
- 過労時や飲酒、薬物を服用して除雪機を使用しないでください。



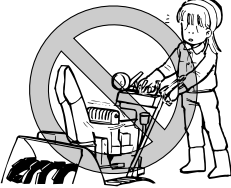
- 除雪機を取り扱うときは、すべりにくいはきもの・防寒服・手袋を着用してください。



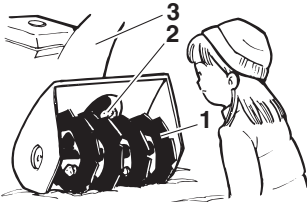
⚠ 安全にお使いいただくために



- 早朝、夜間など視界のよくないときは除雪機を使用しないでください。



- ガードやカバーなどを外した状態でエンジンを始動させないでください。



- 使用前にはオーガやインペラなどの回転部分およびシュータに異物がないか確認してください。
 1. オーガ
 2. インペラ
 3. シュータ



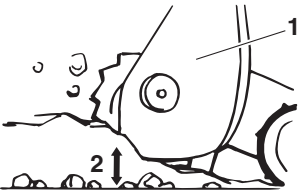
- 除雪機を移動させるとき以外は、屋内でエンジンを始動させないでください。
排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれます。移動のときも扉を開け、充分な換気を行ってください。



- ガソリンは揮発性が高く引火しやすい燃料です。給油時はエンジンを止め、火気を近づけないでください。



- 除雪前に除雪場所から木片・缶・ホース・線材・ナワおよびその他の異物をすべて除去してください。



- 砂利のある場所を除雪するときは、雪に混じって砂利が飛ばないようにオーガハウジングと地面とのすき間を確保して運転してください。

1. オーガハウジング
2. 地面とのすき間

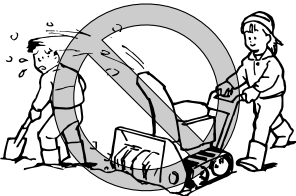


- 除雪機を操作する人以外は除雪場所に入れないでください。



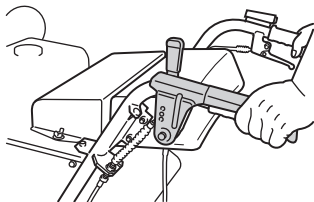
- オーガやインペラなどの除雪部やシュータをのぞいたり、顔や手足を近づけないでください。

1. オーガ
2. インペラ
3. シュータ

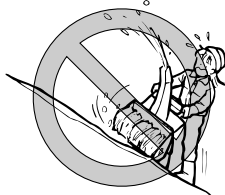


- 人や建物、自動車などに向けて投雪しないでください。

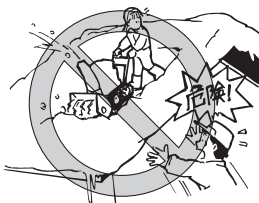
⚠ 安全にお使いいただくために



- オーガクラッチレバーや走行クラッチレバーを絶対に固定しないでください。安全機構が機能しなくなり、死亡や重傷など重大事故になるおそれがあります。



- 傾斜面を横切って除雪しないでください。
また、坂道での除雪や停車はしないでください。



- 屋根に積もった雪の除雪や急斜面では使用しないでください。



- 除雪機に異常な振動・音・においがあるときはエンジンを停止し、お買いあげいただいたヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



- 除雪機を駐車するときは平坦な場所に止め、オーガを下げて地面に接地させます。除雪機が安易に、突然動き出さないように、変速レバーは中立“N”以外の位置にしてください。

1. オーガ
2. 変速レバー

⚠ 安全にお使いいただくために



- エンジン停止後、しばらくの間はマフラー（排気管）が熱くなっていますので、通行する人が触れない場所に除雪機を止めてください。



- 除雪機を除雪以外の目的で使用しないでください。



- シュータに詰まった雪を取り除くときはエンジンを停止させてからスノーバー（雪かき棒）を使用してください。

1. シュータ



- 除雪機にカバーなどを掛けるときは、エンジンやマフラーが十分に冷えてから掛けてください。

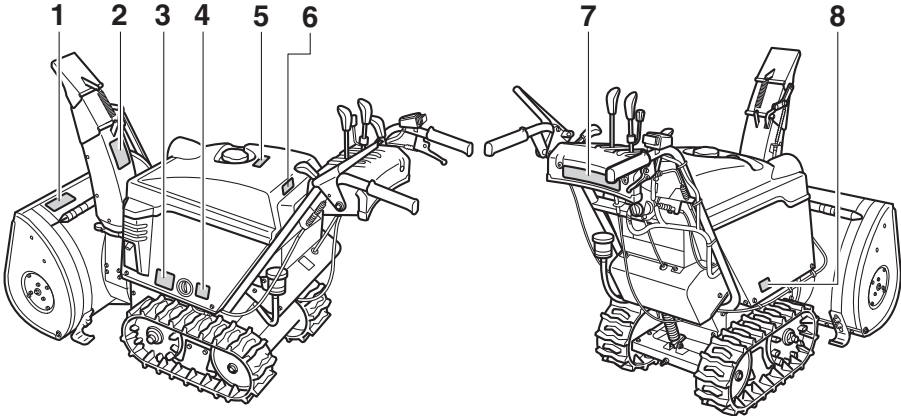
安全にお使いいただくために

重要ラベル


商品の安全な取り扱いのため、本体に貼付されている「ラベル」をお読みいただき、ラベルの指示に従ってください。

要 点

重要ラベルが破れたりはがれたりした場合は、ヤマハ販売店に相談して新しいものと交換してください。





1

	⚠ 危険 <ul style="list-style-type: none">エンジン回転中はそえたり、手を入れたりしないでください。雪を取除くときはかならずエンジンを停止してから、雪かき棒で行なってください。巻き込まれて、ケガをするおそれがあります。 <small>7MR-617211**</small>
---	---

2

⚠ 警告	
	<ul style="list-style-type: none">エンジン回転中はそえたり、手を入れたりしないでください。雪を取除くときはかならずエンジンを停止してから、雪かき棒で行なってください。巻き込まれて、ケガをするおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none">作業中は投雪口を人や建物に向けてください。飛散物によりケガや破損のおそれがあります。 <small>7MN-617262**</small>

3

⚠ 警告	
	排気ガスに注意 <p>室内および換気の悪い場所での運転は排気ガスが充満し、人体に有害です。</p>
	⚠ 注意 <p>マフラー高温注意</p> <p>さわるとやけどをするおそれがあります。</p> <small>7MN-24156**</small>

4

長期保管時には
コック矢印を「キャブ」位置に、その後
「ホース」位置に合
わせて下さい。
残っているガソリンが排出口から
抜けます。

7RV-F4241-**

危険 火気 厳禁
ガソリン排出口に火を
近づけると火災になる
恐れがあります。

5

危険 火気 厳禁

●給油口に火を近づけ
ると火災になるおそれ
があります。●給油中
は、エンジンを停止し
てください。

7MN-2415E-**

6

危険

・クラッチレバーは絶対に
固定しないでください。
・死亡や重傷など重大事故になる
おそれがあります。

770-2419H-**

7

<p>危険</p> <p>↑後進するときはかならず後 を確認して、ゆっくりと走行 クラッチを入れてください。 ケガをするおそれ があります。</p>	<p>注意</p> <p>・変速レバーが「N」の中立位置以外で は走行クラッチを入れないでください。 ・急発進により、ケガをするおそれ があります。</p>	<p>注意</p> <p>・点検整備するときは、エンジンを停止 してください。 ・ケガをするおそれがあります。</p>	<p>注意</p> <p>・作業前に取扱説明書を よく読んで安全で正しい 作業をしてください。 ・操作位置と機体を よく理解してから、運転 してください。</p>	<p>エンジンスイッチ</p> <p>停止 運転 始動</p>
				<p>↑後進するときはかならず後 を確認して、ゆっくりと走行 クラッチを入れてください。 ケガをするおそれ があります。</p>

8

注意

○カバー類は常に装着してください。
○はずしたままで運転するとケガをする
おそれがあります。

7MN-5151F-**

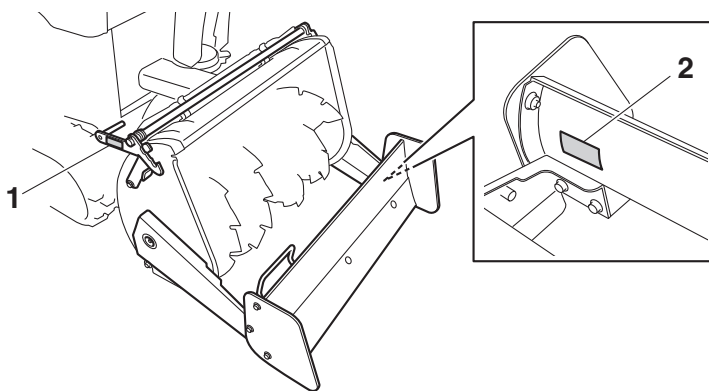
⚠ 安全にお使いいただくために

YSF860B/YSF1070TB

商品の安全な取り扱いのため、ロック解除レバー部分に貼付されている「ラベル」をお読みいただき、ラベルの指示に従ってください。

要 点

重要ラベルが破れたりはがれたりした場合は、ヤマハ販売店に相談して新しいものと交換してください。



1

⚠ 注意	このレバーを操作する時は必ずブレードのハンドルを握りながら操作してください。ブレードが落下する恐れがあります。
	7VY-R2691-**

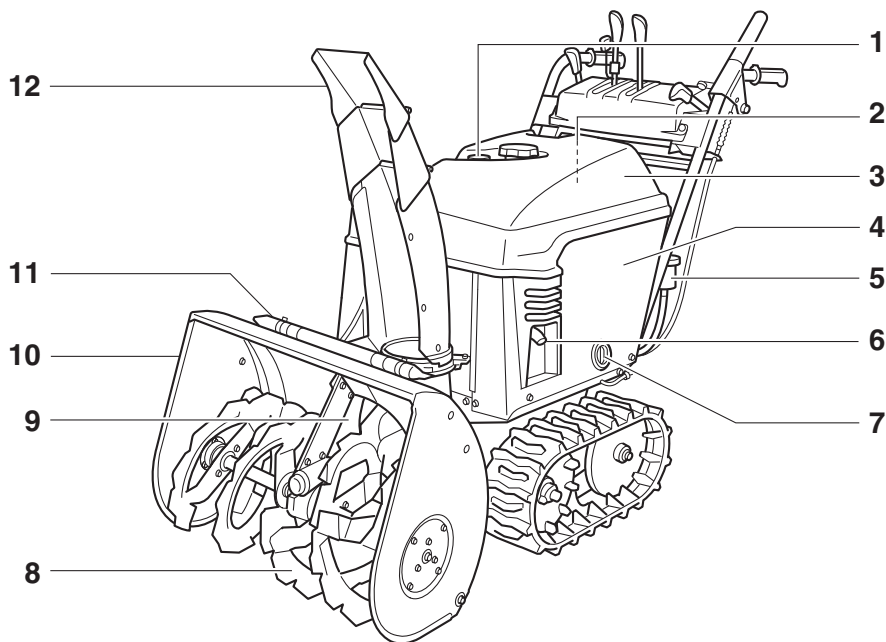
2

YAMAHA SNOWMATE	
名称	***
製造番号	*** -
製造元	株式会社 サザキコーポレーション
総発売元	ヤマハモーターパワープロダクツ株式会社
MADE IN JAPAN	

各部の名称と取り扱い

各部の名称

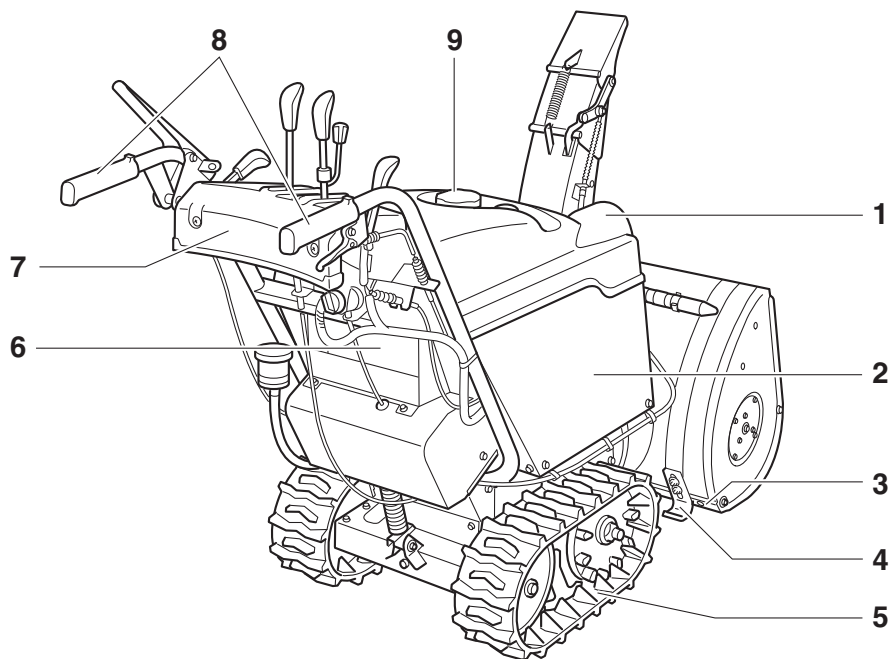
YSF860



- 1 燃料残量計
- 2 燃料タンク
- 3 トップカバー
- 4 左サイドカバー
- 5 変速機 (HST) オイルタンク
- 6 マフラー
- 7 燃料コック
- 8 オーガ
- 9 インペラ
- 10 オーガハウジング
- 11 スノーバー (雪かき棒)
- 12 シュータデフレクタ

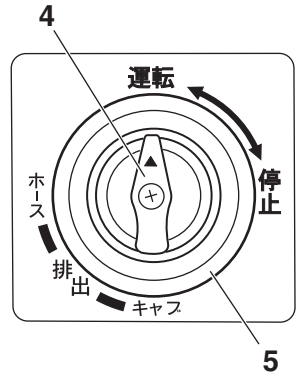
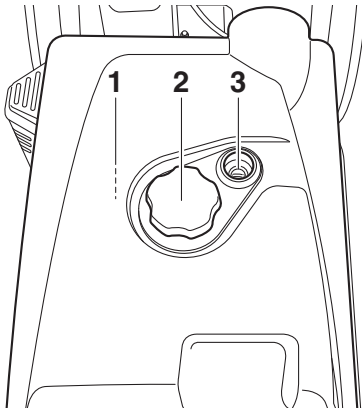
各部の名称と取り扱い

YSF860

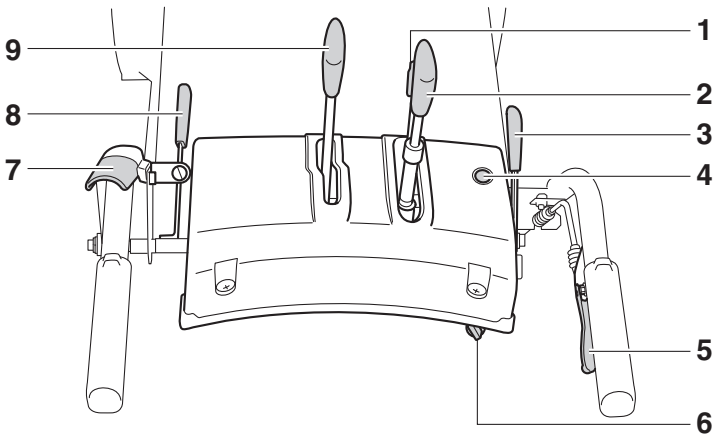


- 1 作業灯
- 2 右サイドカバー
- 3 スクレーパ
- 4 スキッド
- 5 トラック (クローラ)
- 6 バッテリー
- 7 パネル
- 8 ハンドル
- 9 燃料タンクキャップ

YSF860



- | | |
|-------------|------------|
| 1 燃料タンク | 4 燃料コックレバー |
| 2 燃料タンクキャップ | 5 燃料コック |
| 3 燃料残量計 | |

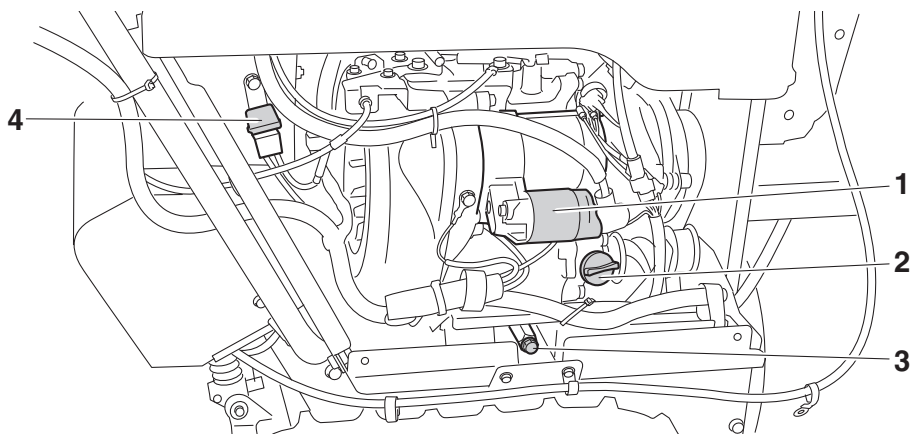


- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1 シュータ方向調整レバー | 6 エンジンスイッチ/エンジンスイッチキー |
| 2 シュータデフレクタ調整レバー | 7 走行クラッチレバー |
| 3 スロットルレバー | 8 オーガクラッチレバー |
| 4 油量警告灯 | 9 変速レバー |
| 5 オーガハウジング高さ調整レバー | |

各部の名称と取り扱い

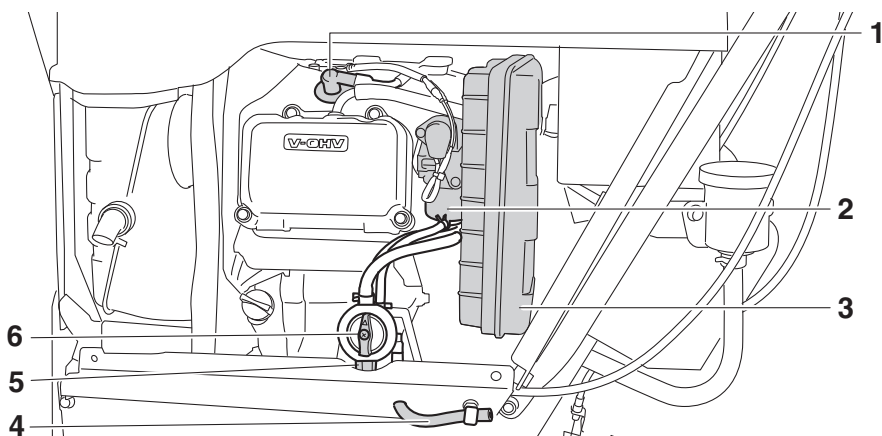
YSF860

右サイドカバーの内側



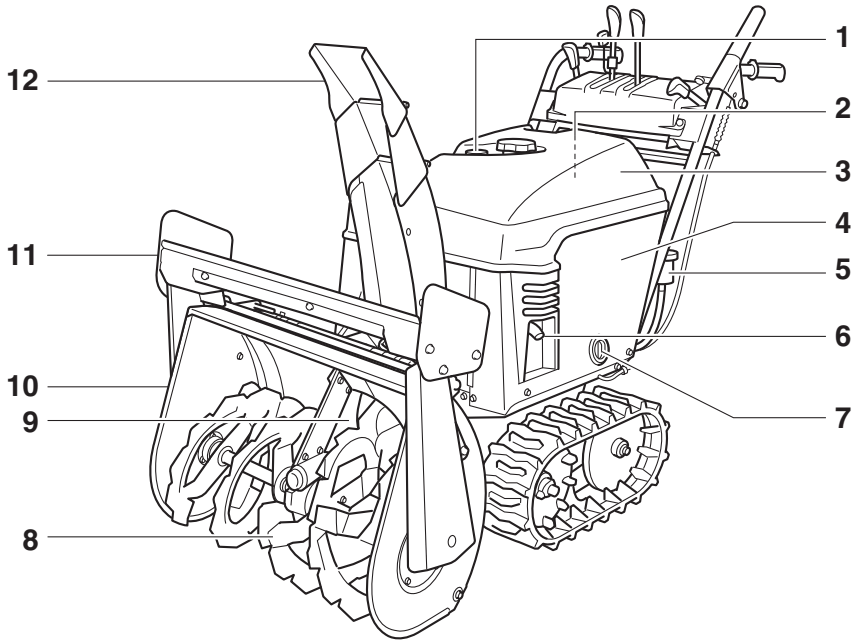
- | | |
|------------------------|----------|
| 1 エレクトリックスタータ (セルスタータ) | 3 ドレンボルト |
| 2 オイルプラグ | 4 ヒューズ |

左サイドカバーの内側



- | | |
|-----------------------|------------|
| 1 スパークプラグキャップ/スパークプラグ | 4 排出パイプ |
| 2 キャブレタ | 5 ストレーナカップ |
| 3 エアクリーナ | 6 燃料コックレバー |

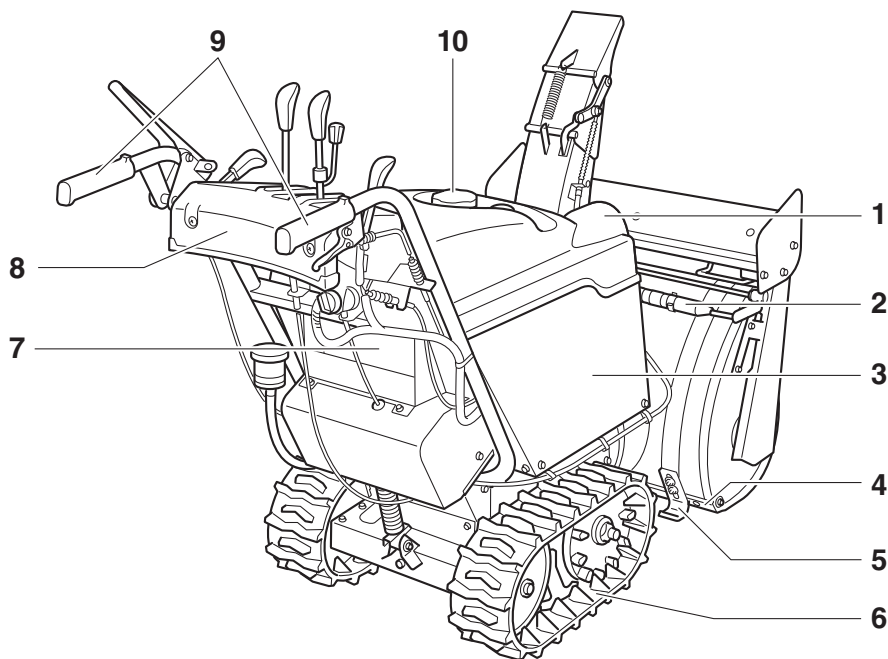
YSF860B



- 1 燃料残量計
- 2 燃料タンク
- 3 トップカバー
- 4 左サイドカバー
- 5 変速機 (HST) オイルタンク
- 6 マフラー
- 7 燃料コック
- 8 オーガ
- 9 インペラ
- 10 オーガハウジング
- 11 オプションブレード
- 12 シュータデフレクタ

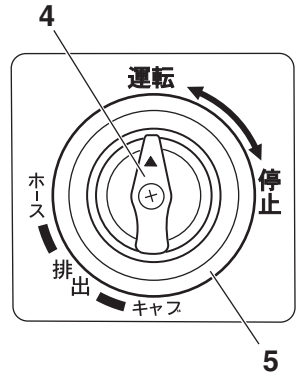
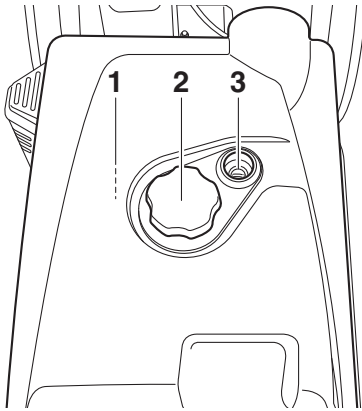
各部の名称と取り扱い

YSF860B

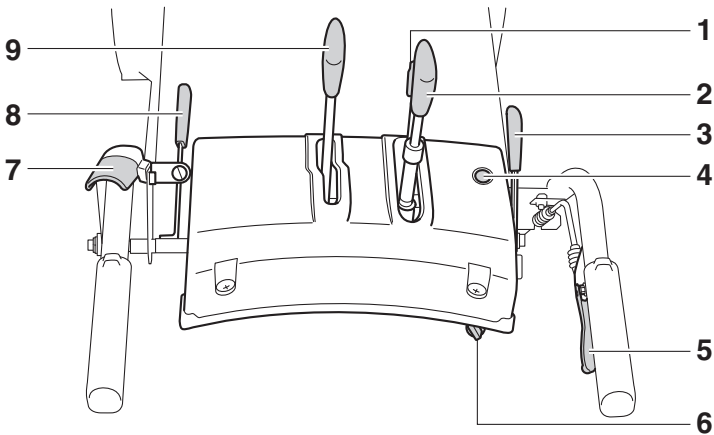


- 1 作業灯
- 2 スノーバー（雪かき棒）
- 3 右サイドカバー
- 4 スクレーパー
- 5 スキッド
- 6 トラック（クローラ）
- 7 バッテリー
- 8 パネル
- 9 ハンドル
- 10 燃料タンクキャップ

YSF860B



- | | |
|-------------|------------|
| 1 燃料タンク | 4 燃料コックレバー |
| 2 燃料タンクキャップ | 5 燃料コック |
| 3 燃料残量計 | |

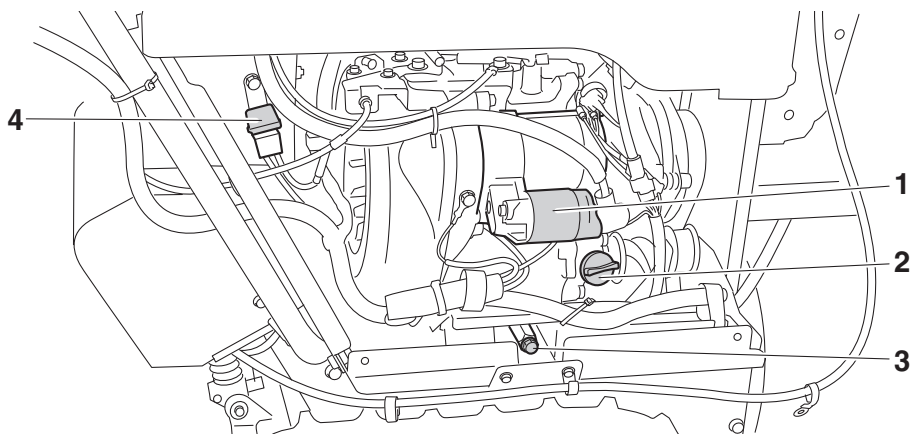


- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1 シュータ方向調整レバー | 6 エンジンスイッチ/エンジンスイッチキー |
| 2 シュータデフレクタ調整レバー | 7 走行クラッチレバー |
| 3 スロットルレバー | 8 オーガクラッチレバー |
| 4 油量警告灯 | 9 変速レバー |
| 5 オーガハウジング高さ調整レバー | |

各部の名称と取り扱い

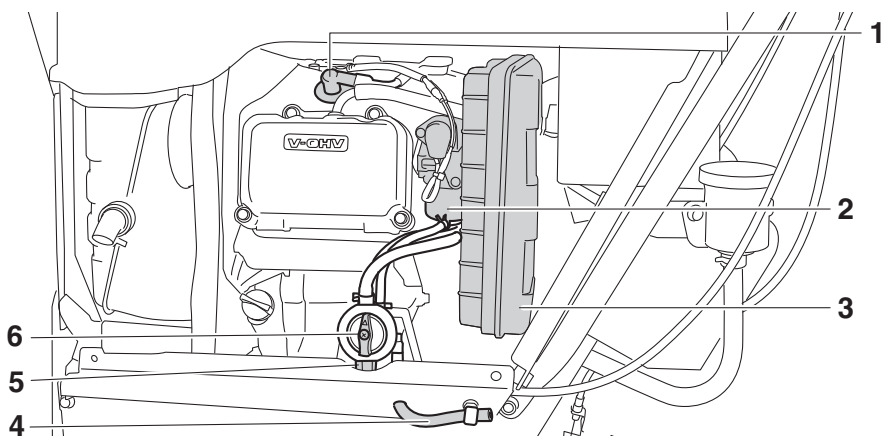
YSF860B

右サイドカバーの内側



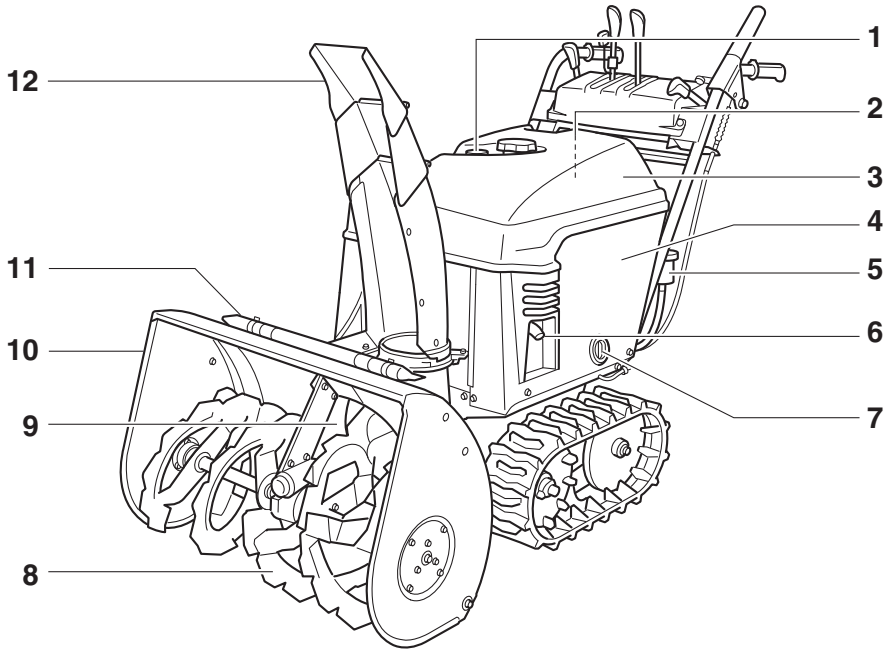
- | | |
|------------------------|----------|
| 1 エレクトリックスタータ (セルスタータ) | 3 ドレンボルト |
| 2 オイルプラグ | 4 ヒューズ |

左サイドカバーの内側



- | | |
|-----------------------|------------|
| 1 スパークプラグキャップ/スパークプラグ | 4 排出パイプ |
| 2 キャブレタ | 5 ストレーナカップ |
| 3 エアクリーナ | 6 燃料コックレバー |

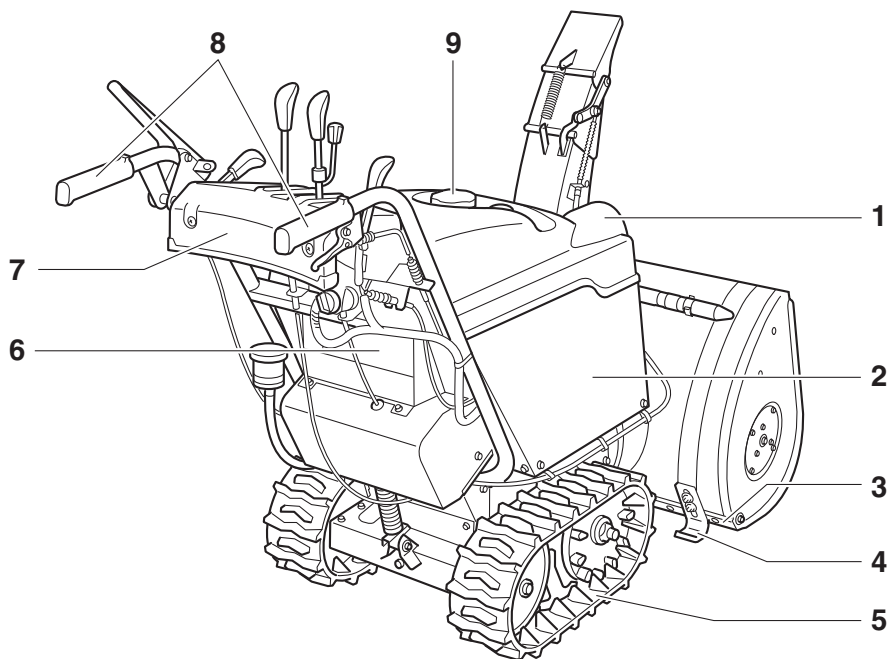
YSF1070



- 1 燃料残量計
- 2 燃料タンク
- 3 トップカバー
- 4 左サイドカバー
- 5 変速機 (HST) オイルタンク
- 6 マフラー
- 7 燃料コック
- 8 オーガ
- 9 インペラ
- 10 オーガハウジング
- 11 スノーバー (雪かき棒)
- 12 シュータデフレクタ

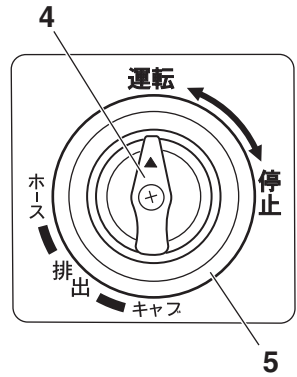
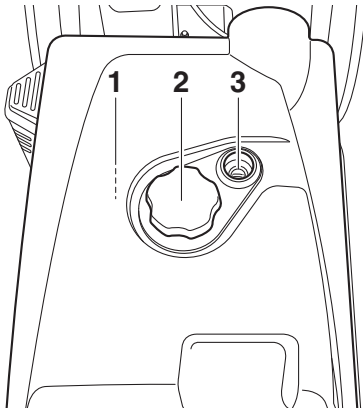
各部の名称と取り扱い

YSF1070

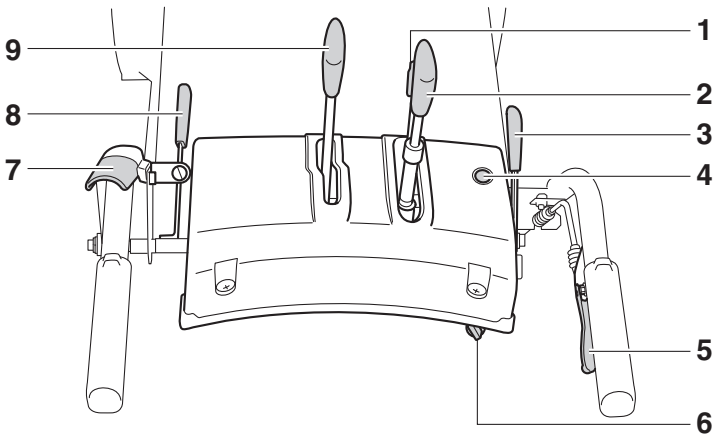


- 1 作業灯
- 2 右サイドカバー
- 3 スクレーパー
- 4 スキッド
- 5 トラック (クローラ)
- 6 バッテリー
- 7 パネル
- 8 ハンドル
- 9 燃料タンクキャップ

YSF1070



- | | |
|-------------|------------|
| 1 燃料タンク | 4 燃料コックレバー |
| 2 燃料タンクキャップ | 5 燃料コック |
| 3 燃料残量計 | |

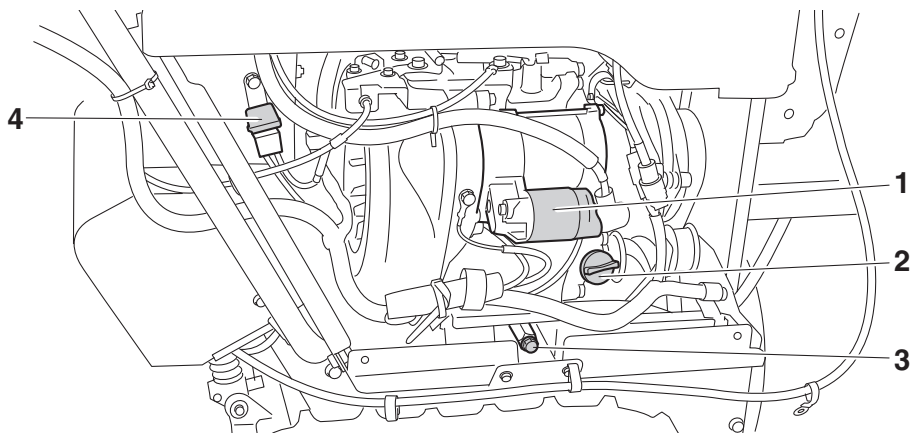


- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1 シュータ方向調整レバー | 6 エンジンスイッチ/エンジンスイッチキー |
| 2 シュータデフレクタ調整レバー | 7 走行クラッチレバー |
| 3 スロットルレバー | 8 オーガクラッチレバー |
| 4 油量警告灯 | 9 変速レバー |
| 5 オーガハウジング高さ調整レバー | |

各部の名称と取り扱い

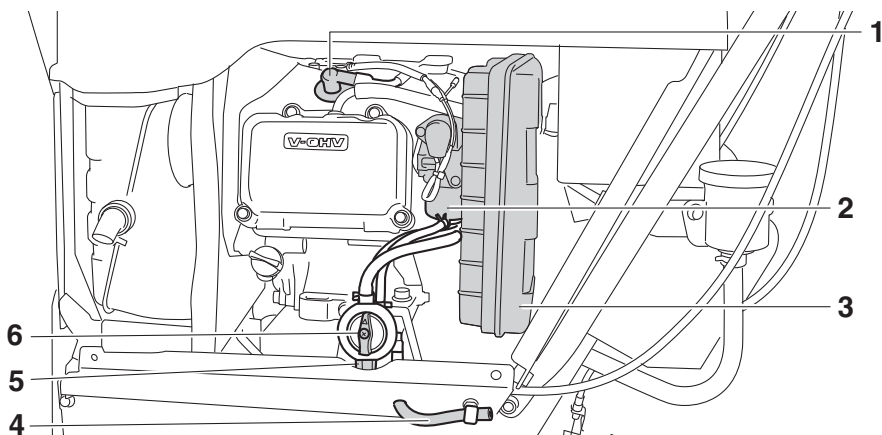
YSF1070

右サイドカバーの内側



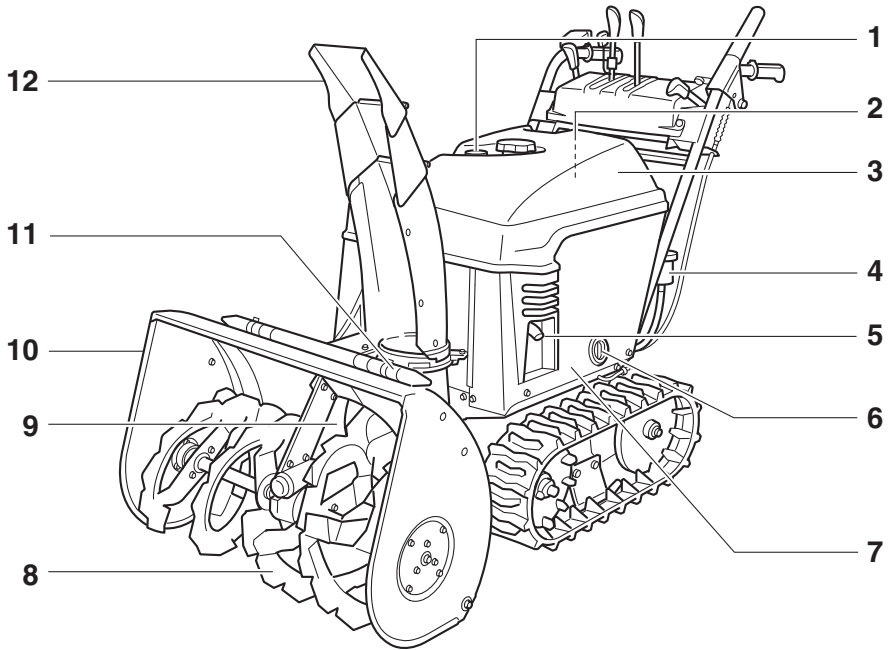
- | | |
|------------------------|----------|
| 1 エレクトリックスタータ (セルスタータ) | 3 ドレンボルト |
| 2 オイルプラグ | 4 ヒューズ |

左サイドカバーの内側



- | | |
|-----------------------|------------|
| 1 スパークプラグキャップ/スパークプラグ | 4 排出パイプ |
| 2 キャブレタ | 5 ストレーナカップ |
| 3 エアクリーナ | 6 燃料コックレバー |

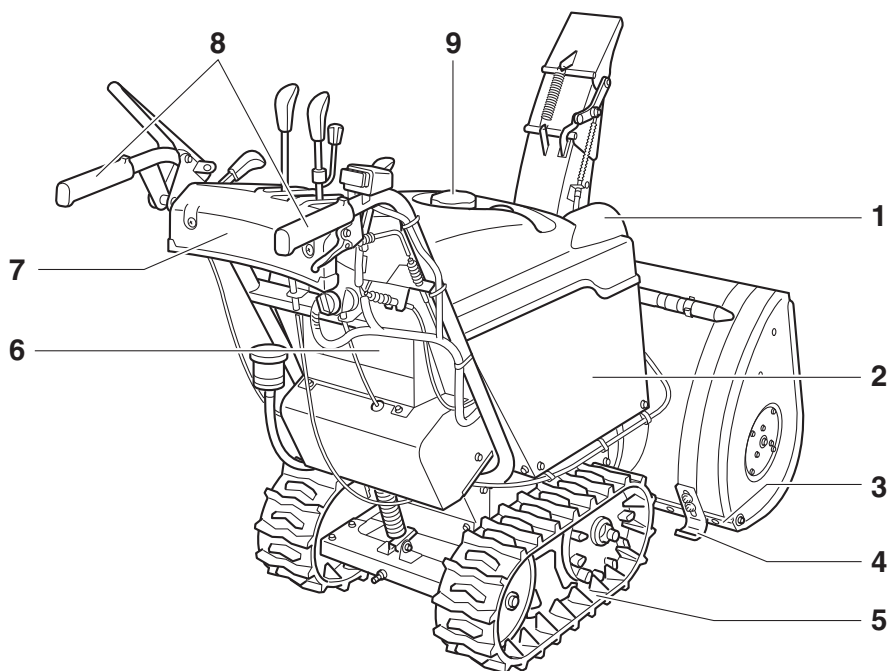
YSF1070T



- 1 燃料残量計
- 2 燃料タンク
- 3 トップカバー
- 4 変速機 (HST) オイルタンク
- 5 マフラー
- 6 燃料コック
- 7 左サイドカバー
- 8 オーガ
- 9 インペラ
- 10 オーガハウジング
- 11 スノーバー (雪かき棒)
- 12 シュータデフレクタ

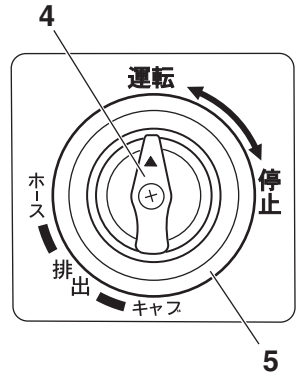
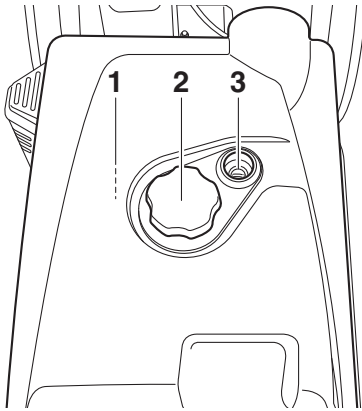
各部の名称と取り扱い

YSF1070T

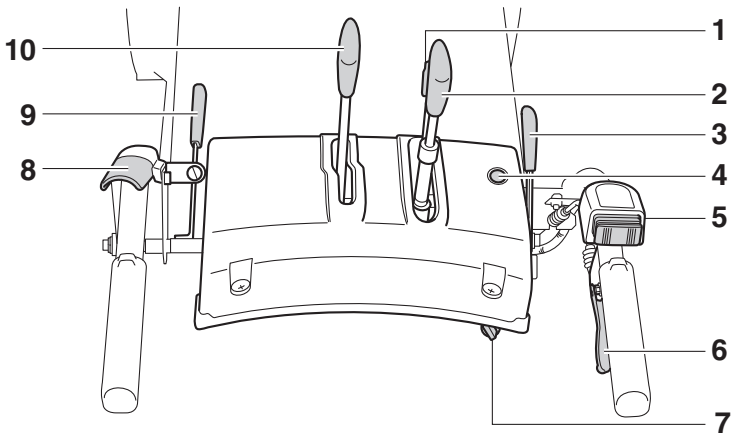


- 1 作業灯
- 2 右サイドカバー
- 3 スクレーパー
- 4 スキッド
- 5 トラック (クローラ)
- 6 バッテリー
- 7 パネル
- 8 ハンドル
- 9 燃料タンクキャップ

YSF1070T



- | | |
|-------------|------------|
| 1 燃料タンク | 4 燃料コックレバー |
| 2 燃料タンクキャップ | 5 燃料コック |
| 3 燃料残量計 | |

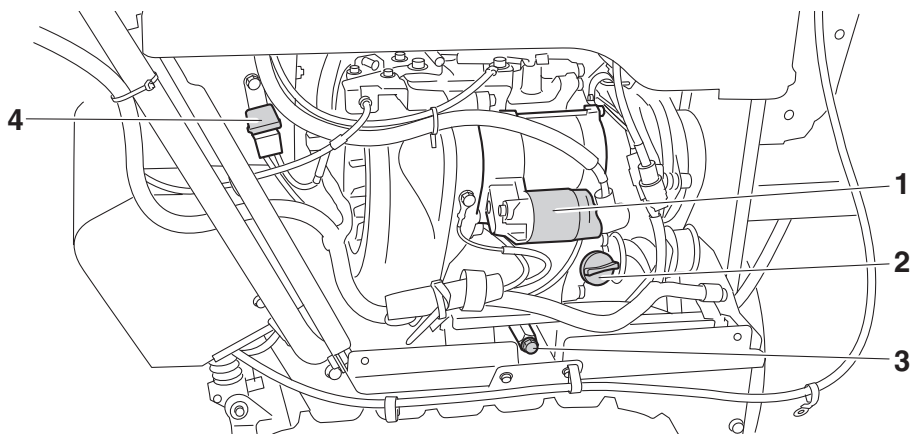


- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1 シュータ方向調整レバー | 6 オーガハウジング高さ調整レバー |
| 2 シュータデフレクタ調整レバー | 7 エンジンスイッチ/エンジンスイッチキー |
| 3 スロットルレバー | 8 走行クラッチレバー |
| 4 油量警告灯 | 9 オーガクラッチレバー |
| 5 旋回スイッチ | 10 変速レバー |

各部の名称と取り扱い

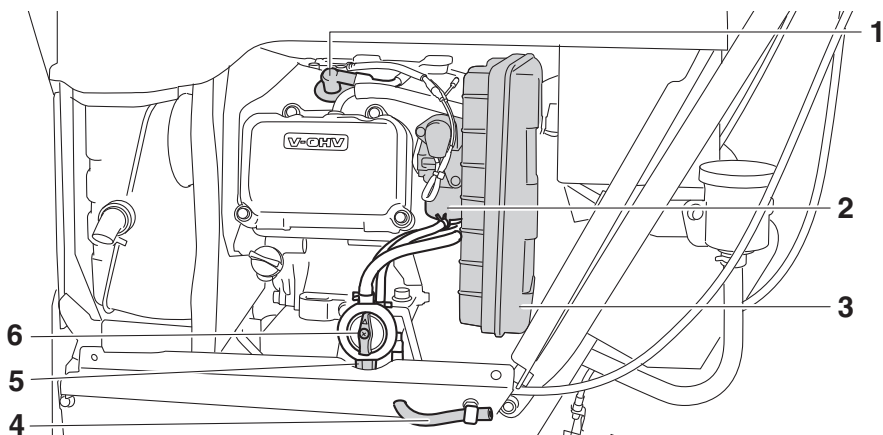
YSF1070T

右サイドカバーの内側



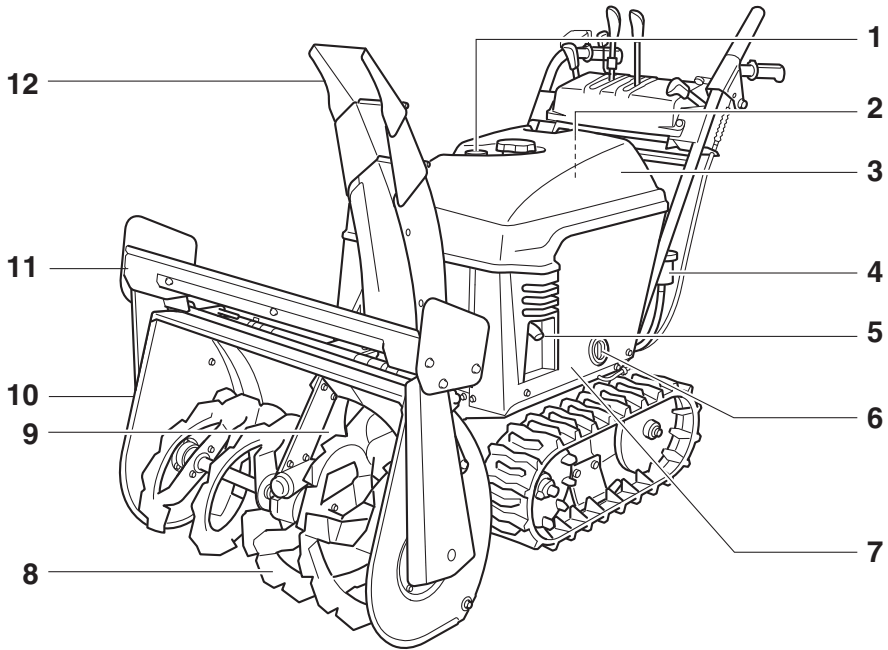
- | | |
|------------------------|----------|
| 1 エレクトリックスタータ (セルスタータ) | 3 ドレンボルト |
| 2 オイルプラグ | 4 ヒューズ |

左サイドカバーの内側



- | | |
|-----------------------|------------|
| 1 スパークプラグキャップ/スパークプラグ | 4 排出パイプ |
| 2 キャブレタ | 5 ストレーナカップ |
| 3 エアクリーナ | 6 燃料コックレバー |

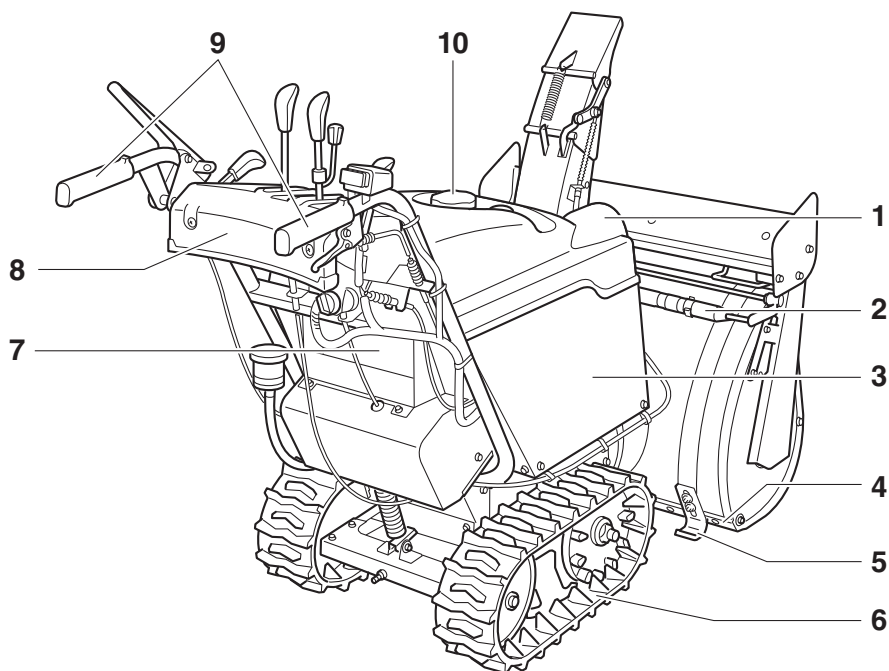
YSF1070TB



- 1 燃料残量計
- 2 燃料タンク
- 3 トップカバー
- 4 変速機 (HST) オイルタンク
- 5 マフラー
- 6 燃料コック
- 7 左サイドカバー
- 8 オーガ
- 9 インペラ
- 10 オーガハウジング
- 11 オプションブレード
- 12 シュータデフレクタ

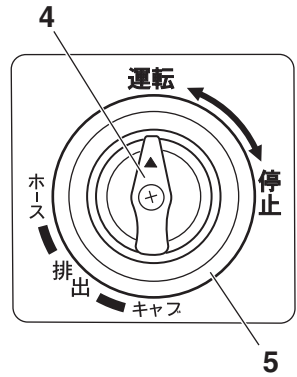
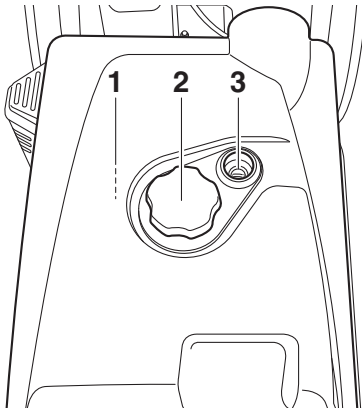
各部の名称と取り扱い

YSF1070TB

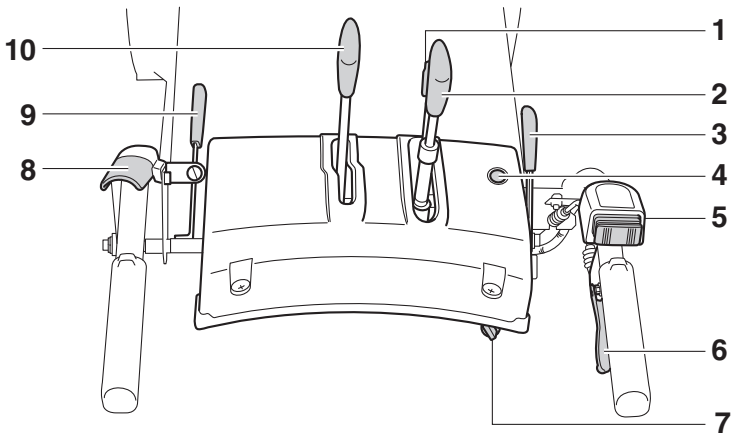


- 1 作業灯
- 2 スノーバー（雪かき棒）
- 3 右サイドカバー
- 4 スクレーパー
- 5 スキッド
- 6 トラック（クローラ）
- 7 バッテリー
- 8 パネル
- 9 ハンドル
- 10 燃料タンクキャップ

YSF1070TB



- | | |
|-------------|------------|
| 1 燃料タンク | 4 燃料コックレバー |
| 2 燃料タンクキャップ | 5 燃料コック |
| 3 燃料残量計 | |

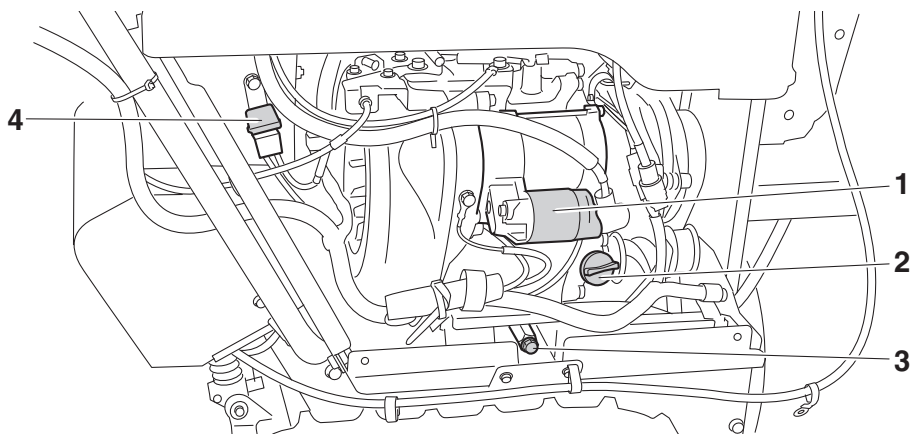


- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1 シュータ方向調整レバー | 6 オーガハウジング高さ調整レバー |
| 2 シュータデフレクタ調整レバー | 7 エンジンスイッチ/エンジンスイッチキー |
| 3 スロットルレバー | 8 走行クラッチレバー |
| 4 油量警告灯 | 9 オーガクラッチレバー |
| 5 旋回スイッチ | 10 変速レバー |

各部の名称と取り扱い

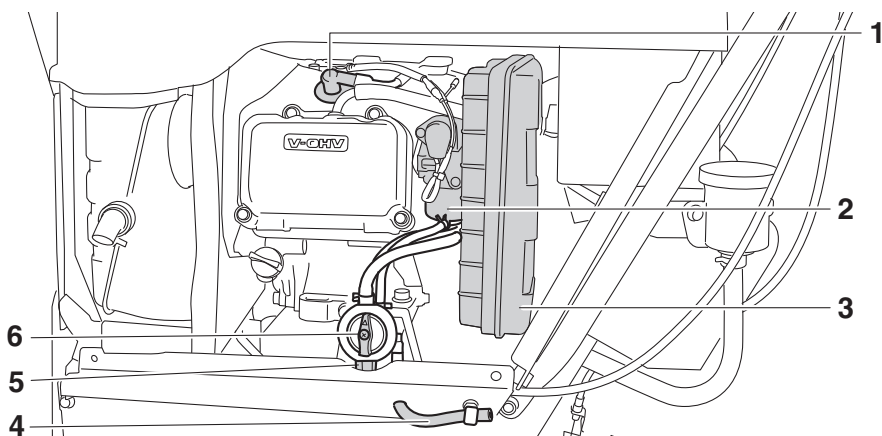
YSF1070TB

右サイドカバーの内側



- | | |
|------------------------|----------|
| 1 エレクトリックスタータ (セルスタータ) | 3 ドレンボルト |
| 2 オイルプラグ | 4 ヒューズ |

左サイドカバーの内側

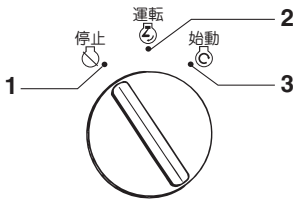


- | | |
|-----------------------|------------|
| 1 スパークプラグキャップ/スパークプラグ | 4 排出パイプ |
| 2 キャブレタ | 5 ストレーナカップ |
| 3 エアクリーナ | 6 燃料コックレバー |

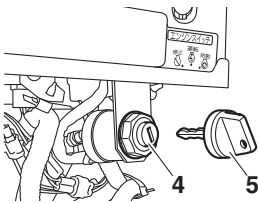
各部の取り扱い

エンジンスイッチ

エンジンスイッチは始動・運転・停止系統を制御します。



1. 停止
2. 運転
3. 始動
4. エンジンスイッチ
5. エンジンスイッチキー



停止

エンジンを停止する位置です。

エンジンスイッチキーの抜き取り、差し込みができません。

停止と運転の間

油量警告灯が点灯します。

油量警告灯の球切れ確認ができます。

運転

エンジン運転中の位置です。

エンジンスイッチキーの抜き取りはできません。

始動

エンジンを始動する位置です。

スタータモーターが回ります。エンジンスイッチキーから手をはなすと自動的に“運転”の位置に戻ります。

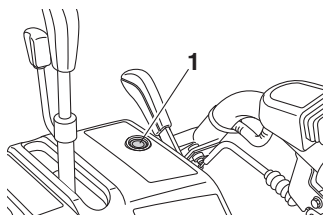
エンジンスイッチキーの抜き取りはできません。

注意

- スタータモーターを連続して5秒以上回転させないでください。消費電力が多いため、バッテリー上がりの原因になります。
- エンジンが停止した状態で長時間“運転”位置で放置しないでください。
バッテリー上がりの原因になります。

要点

使用しないときは、エンジンスイッチキーを抜いてください。



油量警告灯

運転中にエンジンオイル量が規定量以下になると点灯します。

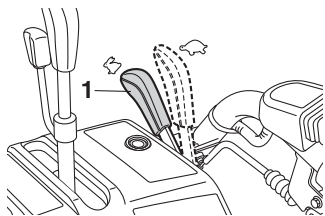
油量警告灯が点灯したときは、ただちにエンジンを止め、エンジンオイルを規定量まで補給してください。

1. 油量警告灯

注意

除雪機の傾きにより油量警告灯が点灯する場合があります。

そのときは除雪機を水平な場所に移動し、再度油量警告灯が点灯するか確認してください。



スロットルレバー

エンジンの回転数を制御します。

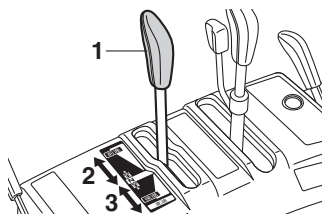
1. スロットルレバー



エンジンを始動するとき、暖機運転時または除雪作業や移動をするときのレバー位置です。



アイドリング運転のときのレバー位置です。



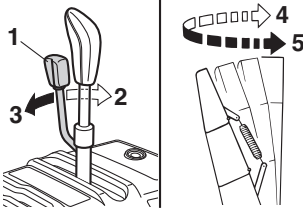
変速レバー

前進、後進の切り替え、および走行速度を調節するときに操作します。

1. 変速レバー
2. 前進
3. 後進

注意

変速レバーは中立“N”の位置からゆっくり操作し、作業に適した速度に調節してください。変速レバーの急激な操作は変速装置（HST）に負荷を与え、部品破損やオイル漏れにつながるおそれがあります。



シュータ方向調整レバー

投雪方向を変えるときに操作します。

1. シュータ方向調整レバー
2. 右
3. 左
4. 右回転
5. 左回転

レバーを右に回す

シュータは右回転します。

レバーを左に回す

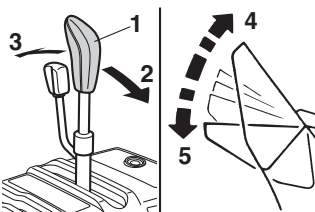
シュータは左回転します。

注意

- シュータ方向調整レバーを強く押さないでください。
強く押すとスイッチが破損する場合があります。
- シュータがロックしている状態でシュータ方向調整レバーを押し続けしないでください。
モータのブレーキが作動したり、またはモータが破損する場合があります。
- シュータの方向調整はエンジンが運転しているときに行ってください。
エンジンスイッチを“運転”の位置にしてエンジンを始動せずに操作するとバッテリーが消耗します。

要点

シュータ方向調整レバーを強く押してもシュータの移動は速くなりません。



シュータデフレクタ調整レバー

投雪角度を変えるときに操作します。

1. シュータデフレクタ調整レバー
2. 引く
3. 押す
4. 上向き
5. 下向き

レバーを引く

シュータデフレクタが上向きになり雪を遠くに飛ばします。

レバーを押す

シュータデフレクタが下向きになり雪を近くに飛ばします。

注意

シュータデフレクタ調整レバーを強く押し下したり引いたりしないでください。

シュータデフレクタ機構が損傷する場合があります。

走行クラッチレバー

除雪機を走行させるときに操作します。

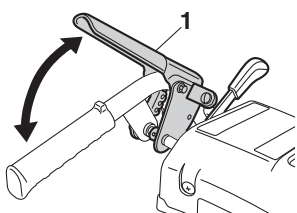
1. 走行クラッチレバー

レバーを握る

除雪機が走行します。

レバーをはなす

除雪機が停止します。



旋回スイッチ (YSF1070T/YSF1070TB)

進行方向を変えるときに操作します。

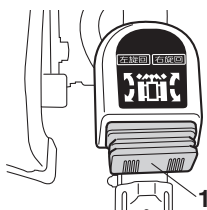
1. 旋回スイッチ

右旋回

右に曲がるときに使います。

左旋回

左に曲がるときに使います。



オーガクラッチレバー

オーガを回転させるときに操作します。

1. オーガクラッチレバー

レバーを引く

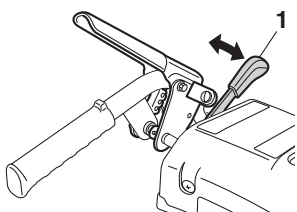
オーガが回転します。

要点

走行クラッチレバーを握っていないと、オーガクラッチレバーを引くことはできません。

レバーを押す

オーガの回転が停止します。



オーガハウジング高さ調整レバー

オーガハウジングの高さを変えるときに操作します。

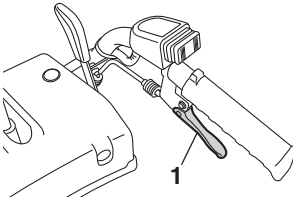
1. オーガハウジング高さ調整レバー

オーガハウジングを上げる

レバーを握りながらハンドルを押し下げ、押し下げた位置でレバーをはなします。

オーガハウジングを下げる

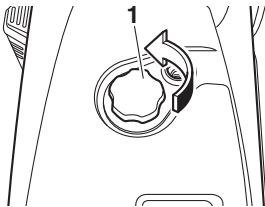
レバーを握りながらハンドルを上げ、上げた位置でレバーをはなします。



燃料タンクキャップ

燃料タンクキャップは反時計方向に回して取り外します。

1. 燃料タンクキャップ



警告

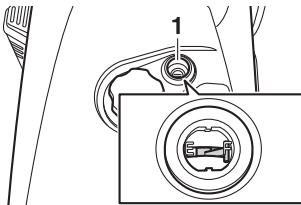
給油後は、燃料タンクキャップを確実に閉めてください。確実に閉めないと燃料漏れをおこし、火災や爆発の原因になるおそれがあります。

燃料残量計

燃料タンク内の燃料残量を示します。

燃料残量計の針が“E”の位置に近づいたら早めに給油してください。

1. 燃料残量計



指定燃料：

無鉛レギュラーガソリン

燃料タンク容量：

6.7 L

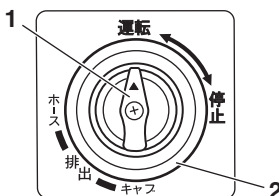
燃料コック

レバーの位置で燃料の流れを制御します。

1. 燃料コックレバー
2. 燃料コック

運転

始動および運転時のレバー位置です。



各部の名称と取り扱い

停止

除雪機を使用しないときのレバー位置です。
燃料は流れません。

キャブ

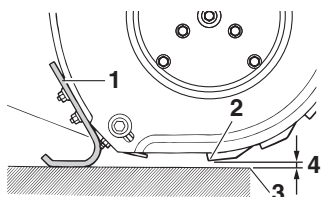
キャブレタ内の燃料を排出パイプから排出するときのレバー位置です。

ホース

燃料コックからキャブレタまでの燃料ホース内の燃料を排出パイプから排出するときのレバー位置です。
短期保管・長期保管時のレバー位置です。

スキッド

スキッドはオーガ先端と路面とのすき間を決めます。
路面の状態に合わせてすき間を調整してください。
(スキッドの調整方法は 5-13 ページ参照)



1. スキッド
2. オーガ先端
3. 路面
4. すき間

警告

路面とオーガ先端のすき間を小さくし過ぎると、オーガの回転が路面に伝わり、除雪機が前に進むことがあります。

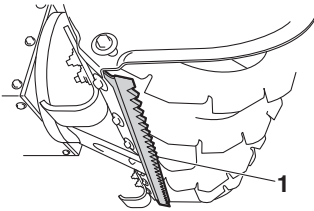
注意

路面とオーガ先端のすき間を小さくし過ぎると、オーガの摩耗が早くなったり路面を傷付けたりすることがあります。

	路面とオーガ先端のすき間
工場出荷時 (標準位置)	5 mm
コンクリート、 アスファルト路	小さくする
小石路、砂利道	大きくする

要 点

スキッドは消耗品となります。交換時期は、ヤマハ販売店に相談してください。



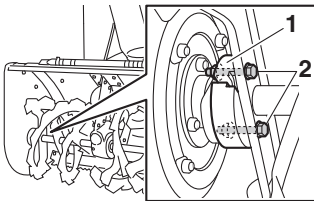
スクレーパ

スクレーパは除雪する雪面をならします。路面の状態に合わせて路面とスクレーパ先端とのすき間を調整してください。

(スクレーパの調整方法は 5-19 ページ参照)

1. スクレーパ

	路面とスクレーパ先端のすき間
工場出荷時 (標準位置)	5 mm 以上
コンクリート、 アスファルト路	小さくする
小石路、砂利道	大きくする



シャーボルトガード

オーガに異物がかみ込んだり縁石などに接触した場合、シャーボルトガードのダンパーが衝撃を緩和し、オーガやシャーボルトを保護します。

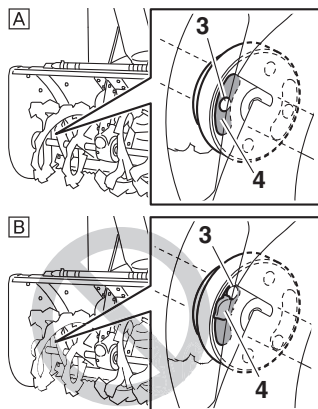
さらに強い衝撃が加わると、シャーボルトが折損します。

1. シャーボルトガード
2. シャーボルト

⚠ 危険

オーガ回転中はのぞいたり、手を入れたりしないでください。回転部分は、危険で重傷を引き起こすおそれがあります。

各部の名称と取り扱い



注意

- 衝撃がダンパーへ繰り返し伝わることにより、ダンパーは消耗が進みシャーボルトガードの外へはみ出してきます。シャーボルトガードの外へのダンパーのはみ出し、またはシャーボルトガードピンの位置を目視で確認してください。図で示すようにシャーボルトガードピンがダンパーの中心からずれたときがダンパーの交換時期となります。ヤマハ販売店に部品交換を依頼してください。
- ダンパーがシャーボルトガードの外へはみ出したまま使用し続けるとシャーボルトが折損するおそれがあります。

□ A 通常時

□ B 交換時

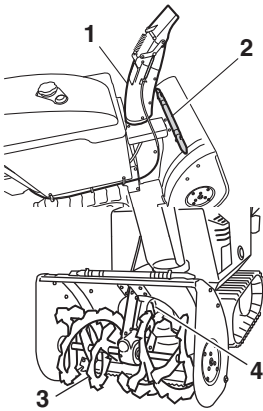
3. シャーボルトガードピン

4. ダンパー

要 点

シャーボルトは純正部品をご使用ください。

- オーガ用
シャーボルト (95822-06035)
ロックナット (95602-06200)
- インペラ用
シャーボルト (95822-06030)
ロックナット (95602-06100)



スノーバー（雪かき棒）

シュータやオーガ、インペラに詰まったり付着した雪を取り除く場合に使用します。

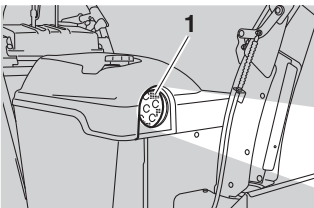
1. シュータ
2. スノーバー（雪かき棒）
3. オーガ
4. インペラ

⚠ 危険

- インペラ、オーガ回転中は中をのぞいたり、手を入れたりしないでください。回転部分は、危険で重傷を引き起こすおそれがあります。
- 回転部に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止してエンジンスイッチキーを抜き、各部が完全に停止してから行ってください。可動部品は、重傷を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

傷害を防ぐためスノーバー（雪かき棒）を使用するときは、手袋を着用してください。



作業灯

作業灯はエンジンが始動すると自動的に点灯し、除雪作業や移動を行う場合に除雪機の前方を照らします。

1. 作業灯

運転する前に点検しましょう

使用前点検

警告

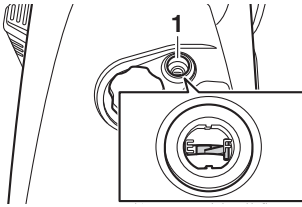
- 点検・整備を怠ると事故やトラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 安全使用のため、ご自身の知識、技量に合わせた範囲で点検を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店に相談してください。
- 点検・整備を行うときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。
 - 点検・整備は平坦な足場のしっかりした場所で行ってください。
 - 点検・整備を行うときは、エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜いてください。
 - エンジン停止直後はエンジン本体やマフラーなどが熱くなっています。やけどに注意してください。
 - 異常が認められたときは、ご使用の方ご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

除雪機を安全で快適にご使用いただくため、お客様自身がご使用前に以下の項目について必ず点検を実施してください。

- 燃料の量
- 各オイル量
- オーガの状態
- ハンドルのゆるみ、ガタ
- スタータモータの作動具合
- エンジンのかかり具合および異音
- 排気の状態
- オーガクラッチ、走行クラッチの操作具合
- シュータの作動具合
- オプションブレードのゆるみ、ガタ (YSF860B/YSF1070TB)
- 前日の作業で異常が認められた箇所

燃料の点検

燃料残量計の針が“F”の位置にあるか点検します。燃料が少ないときは燃料タンクキャップを外し、規定量まで給油してください。



1. 燃料残量計

指定燃料：

無鉛レギュラーガソリン

燃料タンク容量：

6.7 L

2. 規定量

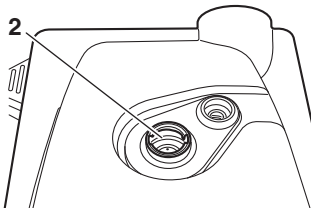
⚠ 危険

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。ガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時はタバコを吸わないでください。また、他の火気を近づけないでください。
- 燃料タンクキャップを開ける前に車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります、やけどするおそれがあります。
- 給油作業は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。

⚠ 警告

- 給油は、屋外の換気のよい場所で行ってください。
- ガソリンは規定量（燃料タンクの口元まで）以上給油しないでください。
- こぼれたときは、ただちに布きれなどで完全にふき取ってください。
- 給油後は、燃料タンクキャップを確実に閉めてください。
- ガソリンを飲み込んだり、ガソリン蒸気を吸い込んだり、またはガソリンが目に入ったりした場合は、ただちに医師の診断を受けてください。
- ガソリンが皮膚や衣類にこぼれた場合は、ただちに石鹸と水で洗い、衣類は取り替えてください。



注意

- 必ず指定燃料を使用してください。指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、エンジン不調の原因になる場合があります。
- タンク内にゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

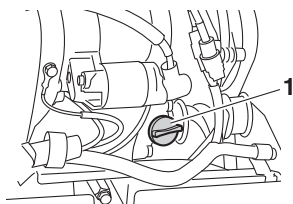
要点

- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早めに補給してください。

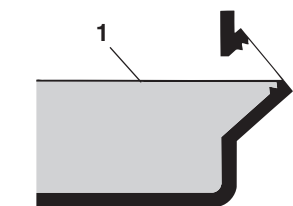
エンジンオイルの点検

オイルプラグを外し、エンジンオイル量がオイル基準面まであるか点検します。

1. 除雪機を平坦な場所で水平な状態にします。
2. 右サイドカバーを外します。(5-6 ページ参照)
3. オイルプラグを取り外します。



1. オイルプラグ



4. エンジンオイル量がオイル基準面まであるか点検します。

1. オイル基準面

5. エンジンオイル量がオイル基準面より少ない場合は、推奨オイルを注入口の口元まで給油します。

推奨オイル：

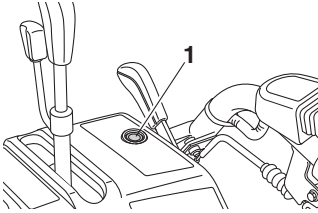
ヤマハ純正除雪機専用エンジンオイル
もしくは 4 ストロークガソリンエンジンオイル
SAE 5W-30 SE 級以上

要 点

エンジンオイルがこぼれたときは、ただちに布きれなどでふき取ってください。

6. オイルプラグを締め付けます。
7. 右サイドカバーを取り付けます。(5-6ページ参照)

1. 油量警告灯



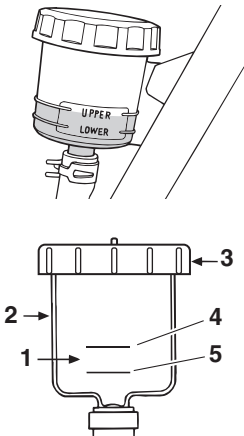
注意

- 除雪機を運転中に油量警告灯が点灯した場合は、できるだけ早めにエンジンを停止してエンジンオイルを補給してください。エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 除雪機運転中の傾きにより、油量警告灯が点灯する場合があります。そのときは除雪機を水平な場所に移動し、再度油量警告灯が点灯するか確認してください。

変速機 (HST) オイルの点検

エンジン始動前、変速機 (HST) が冷えているときに変速機 (HST) オイル量を点検します。

1. パネル下のオイルタンクを確認します。



2. 外気温が -10°C ~ 0°C のとき、変速機 (HST) オイルの油面が中間レベルにあるか点検します。なお、外気温が約 -20°C 以下にはオイルが収縮し、オイルレベルが下限 (LOWER) 以下になる場合があります。

1. 中間レベル
2. HST オイルタンク
3. オイルタンクキャップ
4. 上限 (UPPER)
5. 下限 (LOWER)

注意

除雪作業終了直後には変速機（HST）オイル量の点検をしないでください。

オイルが膨張しており、正確なオイル量の点検ができない場合があります。

要点

オイル量の点検は、除雪機を水平にして行ってください。

3. 変速機（HST）オイルが下限（LOWER）レベルより少ない場合は、5-8 ページの手順に従って推奨オイルを規定量まで補充してください。

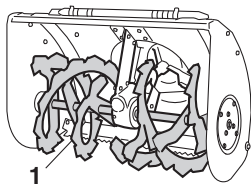
推奨オイル：

ヤマハ純正無段変速機専用（HST）オイル
もしくはディーゼルエンジンオイル
SAE 10W-30 CD 級以上

オーガの点検

オーガに曲がりや変形がないか、異物がからまっているかを点検します。

1. オーガ



ハンドルのゆるみ、ガタの点検

ハンドルを握って左右に動かし、ハンドルにゆるみやガタがないかを点検します。

不具合が認められるときは、ヤマハ販売店に相談してください。

スタータモータの作動具合の点検

エンジンスイッチを“始動”の位置まで回し、スタータモータが勢いよく回るかを点検します。

エンジンのかかり具合および異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。また、エンジンから異音がないかを点検します。

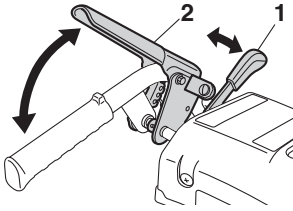
排気の状態の点検

エンジン始動後、排気に異常がないかを点検します。

オーガクラッチ、走行クラッチの操作具合の点検

エンジン始動後、オーガクラッチレバー、走行クラッチレバー、変速レバーを操作して除雪作業の状態にします。

次に、走行クラッチレバーをはなしたときにオーガクラッチレバーも同時に戻り、オーガの回転と除雪機の走行が停止するか点検します。(4-5 ページ参照)



1. オーガクラッチレバー
2. 走行クラッチレバー

シュータの作動具合

エンジン始動後、シュータ方向調整レバー、シュータデフレクタ調整レバーを操作し、作動に不具合がないか点検します。(2-23 ~ 2-23 ページ参照)

オプションブレードのゆるみ、ガタの点検 (YSF860B/YSF1070TB)

エンジンが停止した状態でオプションブレードを持って左右に動かし、取り付け部分にゆるみやガタがないかを点検します。

警告

- 事故防止のため、オプションブレードを操作する際はエンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜いてください。
- 子供や正しい除雪機の操作方法を知らない人には操作させないでください。
- 使用前点検を必ず行ってください。
- 手袋をはめて作業を行ってください。
- 異常が認められたときは、ヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

前日の作業で異常が認められた箇所の点検

前日の作業で異常が認められた箇所について、使用に支障がないかを点検します。

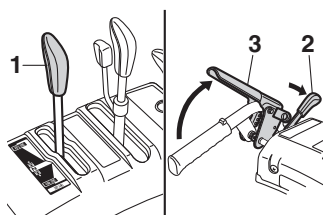
正しい運転方法

エンジンの始動

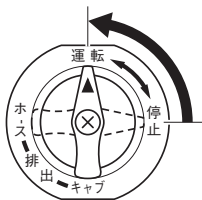
警告

風通しの悪い場所でエンジンをかけないでください。排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒をおこすおそれがあります。

1. 変速レバーを中立“N”の位置にし、オーガクラッチレバーと走行クラッチレバーが切の位置にあることを確認します。

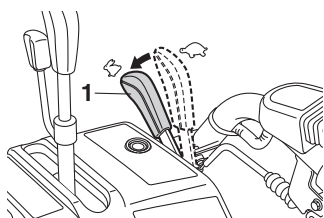


1. 変速レバー
 2. オーガクラッチレバー
 3. 走行クラッチレバー
2. 燃料コックレバーを“停止”から“運転”の位置にします。

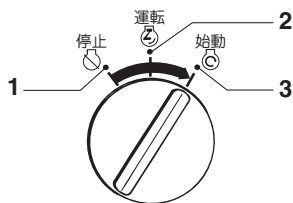


3. スロットルレバーを“☆”の位置にします。

1. スロットルレバー



4. エンジンスイッチを“始動”の位置まで回し、エンジンを始動します。エンジンが始動したらエンジンスイッチキーから手をはなしてください。自動的に“運転”の位置に戻ります。



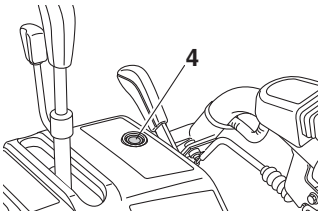
1. 停止
2. 運転
3. 始動

注意

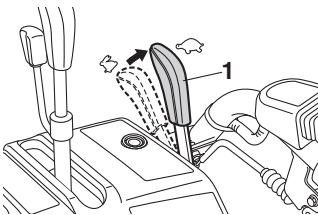
- エンジンスイッチを“運転”の位置にしたときに油量警告灯が点灯した場合は、エンジンオイルが不足していますのでエンジンオイルを補給してください。
- 除雪機の傾きにより、油量警告灯が点灯する場合があります。そのときは除雪機を水平な場所に移動し、再度油量警告灯が点灯するか確認してください。
- 除雪機を運転中に油量警告灯が点灯した場合は、できるだけ早めにエンジンを停止してエンジンオイルを補給してください。

要点

- エンジンスイッチを“停止”と“運転”の中間の位置にしたとき、油量警告灯が点灯するか確認してください。
点灯しない場合は油量警告灯の球切れが考えられますので、ヤマハ販売店に相談してください。
- エンジンスイッチを“始動”の位置まで回して5秒以内でエンジンが始動しないときは、バッテリー回復のため10秒ほど休んでから再度回してください。



4. 油量警告灯

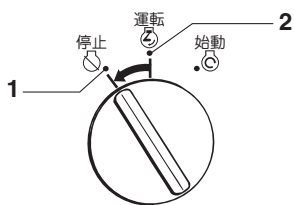


5. エンジンの回転が安定するまで、しばらく暖機運転をします。
6. エンジンの回転が安定したらスロットルレバーを“☁”の位置にします。

1. スロットルレバー

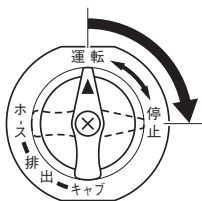
エンジンの停止

1. エンジンスイッチを “停止” の位置にします。



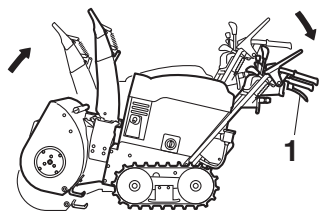
1. 停止
2. 運転

2. 燃料コックレバーを “停止” の位置にします。




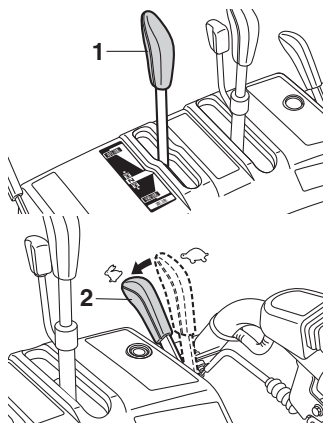
移動をするとき

1. オーガハウジング高さ調整レバーでオーガハウジングを最大に上げた位置に調節します。

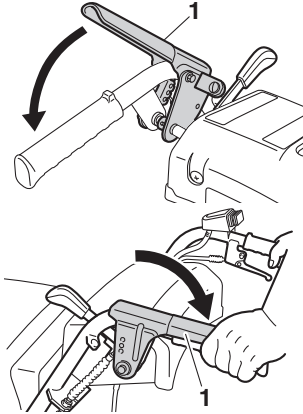


1. オーガハウジング高さ調整レバー

2. 変速レバーが中立 “N” の位置にあることを確認し、スロットルレバーを “” の位置にします。



1. 変速レバー
2. スロットルレバー

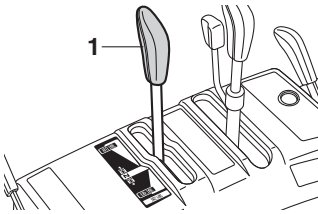


3. 走行クラッチレバーを握ります。

1. 走行クラッチレバー

注意

- 変速レバーを中立“N”の位置にしてから、走行クラッチレバーを握ってください。
- 走行クラッチレバーはゆっくりと操作してください。



4. 変速レバーを中立“N”の位置から徐々に最適な速度の位置にします。

1. 変速レバー

注意

変速レバーの急激な操作は変速装置（HST）に負荷を与え、部品破損やオイル漏れにつながるおそれがあります。

進行方向を変えるとき（YSF1070T/YSF1070TB）

旋回する方向の旋回スイッチを押します。

1. 旋回スイッチ

右に曲がるとき

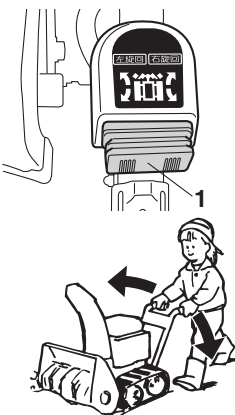
旋回スイッチの右旋回側を押し、押した状態を保持します。

左に曲がるとき

旋回スイッチの左旋回側を押し、押した状態を保持します。

要 点

車速が速いときは、押しても急旋回しないようになっています。

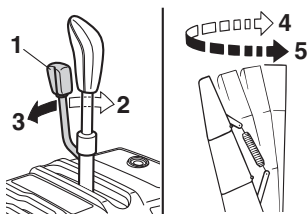


除雪作業をするとき

警告

- 投雪口を人や建物、自動車に向けないでください。傷害を引き起こしたり、物的損害を引き起こすおそれがあります。
- インペラ、オーガ、トラック（クローラ）に異物が巻きついたときはすぐにエンジンを停止し、異物を取り除いてください。除雪機に損傷がないか点検し、損傷が認められる場合は完全に修理した後、使用してください。さらなる損傷または事故を引き起こすおそれがあります。

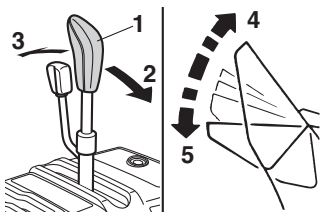
1. オーガハウジング高さ調整レバーでオーガハウジングを最適な高さに調節します。(2-25 ページ参照)



2. シュータ方向調整レバーを操作して投雪方向を決めます。

1. シュータ方向調整レバー
2. 右
3. 左
4. 右回転
5. 左回転

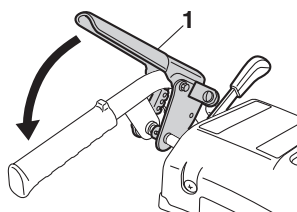
3. シュータデフレクタ調整レバーを操作して雪を飛ばす距離を調節します。



1. シュータデフレクタ調整レバー
2. 引く
3. 押す
4. 上向き
5. 下向き

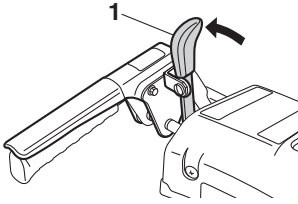
4. 変速レバーが中立 “N” の位置にあることを確認し、走行クラッチレバーを握ります。

1. 走行クラッチレバー



注意

動力伝達装置の損傷を防ぐため、変速レバーを中立 “N” の位置にしてから、走行クラッチレバーを握ってください。

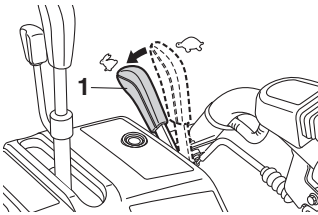



5. オーガクラッチレバーを引くとオーガが回転します。

1. オーガクラッチレバー

要 点



走行クラッチレバーを握っているときにオーガクラッチレバーをいっぱいまで引くと、オーガクラッチレバーは引いた位置で固定され、右手をはなしてもそのまま走行と除雪作業ができます。右手で変速レバー、シュータ方向調整レバー、シュータデフレクタ調整レバー、スロットルレバーなどの操作ができます。

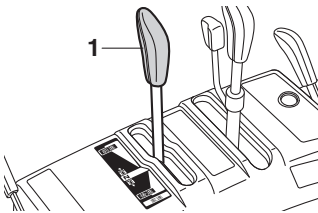


6. スロットルレバーを “” の位置にします。

1. スロットルレバー

要 点

- 雪を遠くに飛ばしたいとき、またはエンジン回転数を上げて運転したいときはスロットルレバーを “” の位置にします。
- 静かに除雪したいとき、またはエンジン回転数を下げて運転したいときはスロットルレバーを “” の位置にします。



7. 変速レバーを中立 “N” の位置から除雪作業に適した速度にします。

1. 変速レバー

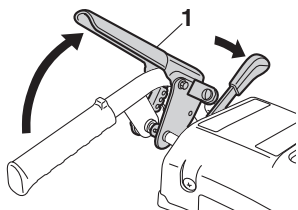
注 意

変速レバーの急激な操作は変速装置（HST）に負荷を与え、部品破損やオイル漏れにつながるおそれがあります。

要 点

- 除雪中にエンジン回転数が下がらずに雪が飛ばないときは、走行速度が速すぎますので減速してください。
- 遅めの速度の方が除雪跡がきれいになります。

正しい運転方法



8. 走行クラッチレバーから手をはなすと、オーガクラッチレバーが自動で切の位置に戻り、オーガの回転と除雪機の走行が停止します。

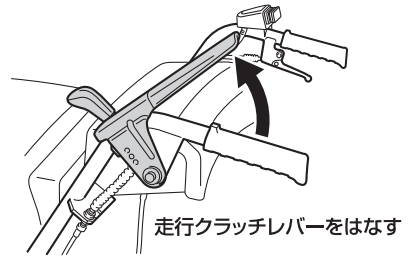
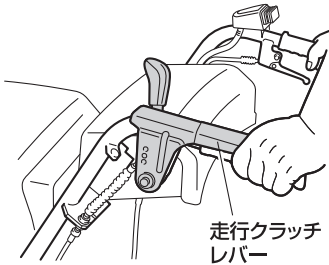
1. 走行クラッチレバー

デッドマンクラッチ

安全機構のデッドマンクラッチ機構により、除雪中または走行中に走行クラッチレバーから手をはなせば、オーガの回転と除雪機の走行が自動停止します。

⚠ 危険

オーガクラッチレバーや走行クラッチレバーを絶対に固定しないでください。安全機構が機能しなくなり、死亡や重傷など重大事故になるおそれがあります。



作業可能
右手で各部操作可能

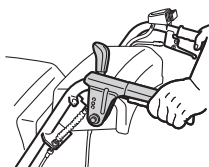
緊急停止
作業終了

走行クラッチレバーとオーガクラッチレバーの操作

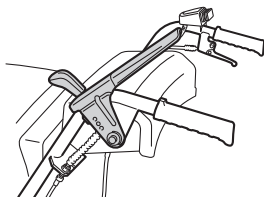
除雪機を移動させるときは、走行クラッチレバーを握ります。

走行クラッチレバーを握っているときにオーガクラッチレバーを引けば、走行および除雪ができます。

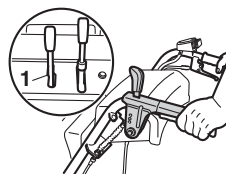
変速レバーを中立“N”にしてから走行クラッチレバーを握り、オーガクラッチレバーを引く
変速レバーを“前進”にゆっくり移動させる



走行クラッチレバーを
はなす



変速レバーを中立“N”にしてから走行クラッチレバーを握り、オーガクラッチレバーを引く



1. 中立“N”

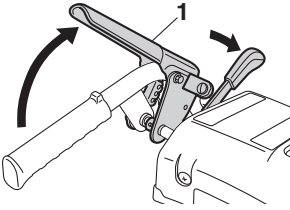
作業可能
右手で各部操作可能

緊急停止
作業終了

オーガに入った
雪を飛ばす

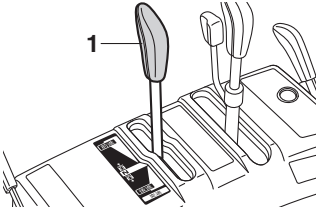
除雪作業を停止するとき

1. 走行クラッチレバーから手をはなします。オーガの回転と除雪機の走行が停止します。



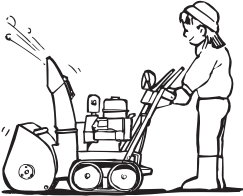
1. 走行クラッチレバー

2. 変速レバーを中立 “N” の位置にします。



1. 変速レバー

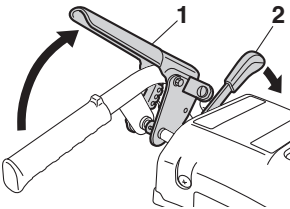
3. 走行クラッチレバーを握ってオーガクラッチレバーを引き、オーガ、インペラに付着した雪を取り除きます。



要 点

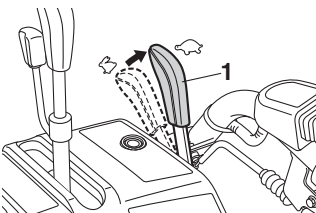
除雪作業停止後、走行クラッチレバーを握り、オーガクラッチレバーを引いてオーガ、インペラを空転させ、オーガ、インペラに付着している雪を取り除いてください。オーガ、インペラに雪が付着したまま放置すると、凍結して故障の原因となることがあります。

4. 走行クラッチレバーから手をはなします。同時にオーガクラッチレバーが戻ります。



1. 走行クラッチレバー
2. オーガクラッチレバー

5. スロットルレバーを “☁” の位置にします。その後、エンジンスイッチを “停止” の位置まで回してエンジンを停止し、燃料コックレバーを “停止” の位置にします。



1. スロットルレバー



6. 除雪機を止めるときはオーガを下げ、地面に接地させ、変速レバーを中立 “N” 以外の位置にします。

警告

除雪機は平坦な場所に止めてください。やむをえず傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に除雪機を止めるときは、除雪機の転倒、動き出しのないように充分注意してください。

エンジンを停止して移動するとき

新車の配送や屋内での移動などの場合に使用します。

注意

- エンジンを始動しないでください。
- 作業は平坦な場所で行ってください。

1. リングを起こしてスプロケットピンを抜きます。
2. 抜いたピンを穴に差し込んでリングを折りたたみます。

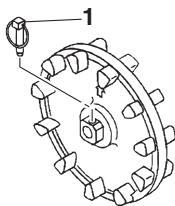
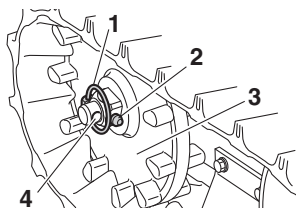
1. リング
2. スプロケットピン
3. スプロケットホイール
4. 穴

要点

スプロケットピンは左右ホイールとも抜いてください。

3. ホイールが空回りしますので、ハンドルを握って本体を押ししたり引いたりして移動させます。
4. 移動が完了したら、左右のピンは元の位置に戻します。

1. スプロケットピン



注意

- スプロケットピンはハンマーで叩かないでください。ピンを破損するおそれがあります。
- 取り付けたスプロケットピンのリングは、脱落しないように必ず折りたたんでください。

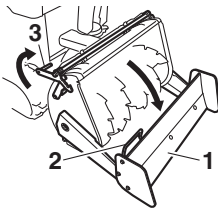
オプションブレードの操作(YSF860B/ YSF1070TB)

警告

除雪機を平坦な場所で水平な状態にしてください。

オプションブレードを降ろす

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. オプションブレードのハンドルを持ってロック解除レバーを上側に動かし、オプションブレードを降ろします。



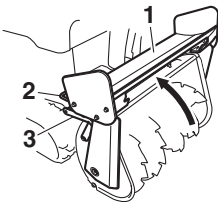
1. オプションブレード
2. ハンドル
3. ロック解除レバー

注意

オプションブレードが一気に落下するおそれがあるので、地面に降ろすときには必ずハンドルを持ちながら操作してください。

オプションブレードを上げる

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. ロック解除レバー部分にかみ合うよう、オプションブレードのハンドルを持って上側に持ち上げます。



1. オプションブレード
2. ハンドル
3. ロック解除レバー

3. オプションブレードがしっかり固定されたことを確認してハンドルから手をはなします。

注意

オプションブレードがしっかり固定されたことを確認してください。

点検と整備

いつまでも安全・快適にご使用いただくために、必ず実施してください。

点検のおすすめ

警告

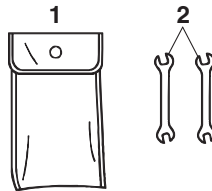
- 点検・整備を怠ると事故やトラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 安全使用のため、ご自身の知識・技量に合わせた範囲で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。
- 点検・整備を行うときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。
 - 点検・整備は平坦な足場のしっかりした場所で行ってください。
 - 点検・整備を行うときは、エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜いてください。
 - エンジン停止直後はエンジン本体やマフラーなどが熱くなっています。やけどに注意してください。
 - 異常が認められたときは、ご使用の方で自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

注意

点検を怠ると不具合の原因となる場合があります。また保証を受けられない場合がありますので注意してください。

サービスツール

お客様ご自身で整備できるよう、本機には以下の簡易サービスツールが備わっております。



1. 工具袋
2. スパナ (10-12)

要 点

簡易サービスツールだけでは、すべての点検・整備を行うことはできません。必要な工具は、お客様ご自身で準備してください。

点検と整備

使用前点検

ご使用前にお客様ご自身によって行っていただく点検です。(3-1 ページ参照)
点検箇所に異常が認められたときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

定期点検

お客様のお申しつけにより、お買いあげのヤマハ販売店が実施します。

お客様の責任で必ず点検を受けてください。

初回点検 お買いあげ日から 1 ヶ月目

格納点検 6 ヶ月ごと

季節前点検 12 ヶ月ごと

点検項目

使用前、定期点検の際には以下の項目を点検します。
季節後の格納点検および季節前点検はヤマハ販売店にご用命ください。

警告

事故防止のため、エンジンを停止して行う作業の場合はエンジンスイッチキーを抜いてください。

点 検 ・ 整 備 項 目		点検整備時期			
		使用前 点検	初 回 (1ヶ月)	格 納 (6ヶ月)	季節前 (12ヶ月)
かじ取り装置					
ハンドル	• ゆるみ、ガタ	√	√	√	√
旋回スイッチ (YSF1070T/ YSF1070TB)	• 操作具合	√			
除雪装置					
操作装置	• スロットルレバーの操作 具合		√	√	√
	• オーガクラッチの操作 具合、作動状態		√	√	√
	• 変速レバーの操作具合		√	√	√
	• 変速レバーの調整の状 態		√	√	√
	• 走行クラッチの操作具 合、作動状態	√	√	√	√
スキッド	• 取付状態、平行度		√	√	√
オーガ高さ調整機構	• 作動状態		√	√	√
オーガおよびインペ ラ	• 取付状態、曲がり	√		√	√
	• ベルトの点検			√	√
シュータ	• 作動状態	√		√	√
	• シュータデフレクタ調 整レバーの操作具合			√	√
	• ゆるみ、ガタ	√	√	√	√
	• 樹脂部の摩耗、亀裂、 割れ	√	√	√	√
動力伝達装置					
トラック(クロー ラ)	• 張り		√	√	√

点検と整備

点検・整備項目		点検整備時期			
		使用前 点検	初回 (1ヶ月)	格納 (6ヶ月)	季節前 (12ヶ月)
ウォームホイール	• オイルの交換		√		√
走行用ベルト	• ベルトの点検			√	√
変速装置					
変速機	• オイルタンクのオイル量	√			
	• オイル漏れ			√	√
電気装置					
エンジンスイッチ	• 作動具合		√	√	√
	• 油量警告灯の球切れ確認	√			
点火装置	• スパークプラグの点検		√	√	√
バッテリー	• 液量、比重			√	√
原動機					
本体	• セルスタータの作動具合	√	√	√	√
	• エンジンのかかり具合および異音	√	√	√	√
	• 定格回転数の測定		√	√	√
	• 排気の状態	√	√	√	√
	• 圧縮圧力				√
	• バルブクリアランス				√
	• シリンダヘッド部のカーボン除去	250 時間ごと			
潤滑装置	• オイル漏れ				√
	• エンジンオイルの量	√			
	• エンジンオイルの交換		√		√
燃料装置	• 燃料漏れ			√	√
	• キャブレタスロットルバルブ・チョークバルブの状態			√	√
	• キャブレタ調整の状態			√	√
	• 燃料の量	√			
	• フューエルホースの交換	4 年ごと			

点検と整備

点 検 ・ 整 備 項 目		点検整備時期			
		使用前 点検	初 回 (1ヶ月)	格 納 (6ヶ月)	季節前 (12ヶ月)
その他					
マフラー	• 取付部のゆるみ			√	√
	• マフラーの機能				√
ボディ	• 亀裂損傷および各部の 締め付け				√
	• 各部の給油脂		√	√	√
前日の作業で異常が認められた箇所		√			

エンジンオイルの交換

警告

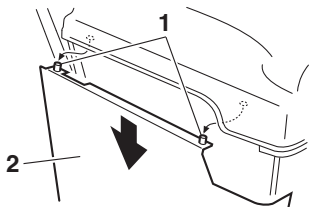
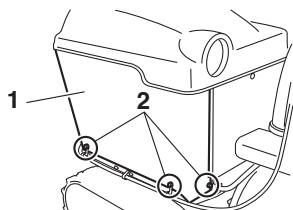
- 除雪機を平坦な場所で水平な状態にしてください。
- エンジン停止直後はオイルが熱くなっていますので、すぐに排出しないでください。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。

要 点

- 油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、ヤマハ販売店に相談してください。
- 初回は20時間目（燃料4回補給時）、その後はシーズン初めごとに交換してください。

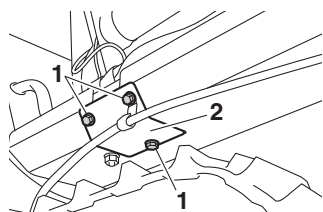
1. エンジンを始動し、2～3分間暖機運転します。
2. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
3. ボルトを取り外します。

1. 右サイドカバー
2. ボルト



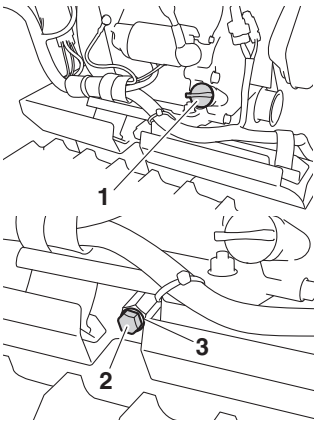
4. 右サイドカバーを引き下げて、車体のラバーグロメットから上部突起を引き抜きます。

1. 突起
2. 右サイドカバー



5. ボルトを外し、エンジンオイルドレンカバーを取り外します。

1. ボルト
2. エンジンオイルドレンカバー



6. 排出するエンジンオイルを受ける容器をドレンボルトの下に用意します。
7. オイルプラグ、ドレンボルトとガスケットを外してエンジンオイルを抜きます。

1. オイルプラグ
2. ドレンボルト
3. ガスケット

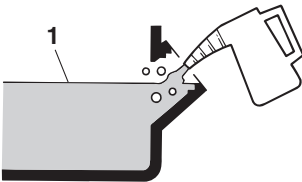
8. 新品のガスケットを使用してドレンボルトを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締め付トルク：

ドレンボルト：
23 N·m (2.3 kgf·m)

9. 新しいエンジンオイルを注入口の口元（オイル基準面）まで給油します。

1. オイル基準面



オイル量：

1.0 L (1000 cm³)

推奨オイル：

ヤマハ純正除雪機専用エンジンオイル
もしくは 4 ストロークガソリンエンジンオイル
SAE 5W-30 SE 級以上

要 点

こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

10. オイルプラグを締め付けます。
11. エンジンオイルドレンカバーを取り付け、ボルトで締め付けます。

12. 突起を車体のラバーグロメットに差し込み、右サイドカバーを元の位置に取り付けます。その後、ボルトを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締付トルク：

エンジンオイルドレンカバー取付ボルト：

10 N・m (1.0 kgf・m)

右サイドカバー取付ボルト：

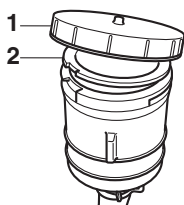
10 N・m (1.0 kgf・m)

変速機（HST）オイルの補給

警告

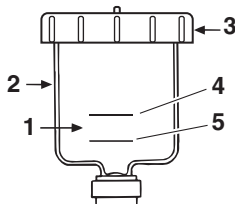
除雪機を平坦な場所で水平な状態にしてください。

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. オイルタンクキャップとダイヤフラムを取り外します。



1. オイルタンクキャップ
2. ダイヤフラム

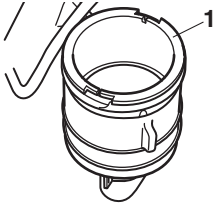
3. 変速機（HST）オイルを HST オイルタンクの上限（UPPER）レベルと下限（LOWER）レベルの間になるまで補給します。



1. 中間レベル
2. HST オイルタンク
3. オイルタンクキャップ
4. 上限（UPPER）
5. 下限（LOWER）

注意

- 補給時、タンクの中にゴミなどの異物が入らないように充分注意してください。
- 推奨オイル以外は使用しないでください。

**推奨オイル：**

ヤマハ純正無段変速機専用（HST）オイル
もしくはディーゼルエンジンオイル
SAE 10W-30 CD 級以上

4. ダイヤフラムとオイルタンクキャップを確実に取り付けます。

1. ダイヤフラム

ウォームケースオイルの交換

ウォームケースオイルの交換が必要なときは、ヤマハ販売店に交換を依頼してください。

要 点

初回は 20 時間目（燃料 4 回補給時）、その後はシーズン初めごとに交換してください。

スパークプラグの点検・清掃

スパークプラグは比較的簡単に点検ができる重要部品です。使用によりスパークプラグは徐々に劣化しますので、定期的を外して点検を行う必要があります。

警告

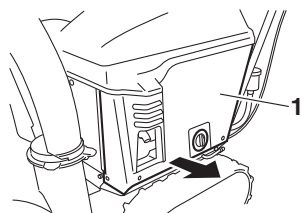
- エンジン停止直後はエンジン本体やマフラーなどが熱くなっています。やけどに注意してください。
- スパークプラグの脱着の際は、ガイシを損傷させないように注意してください。ガイシが損傷すると、漏電により火災などを誘発するおそれがあります。

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。



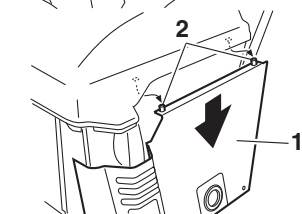
2. ボルトを取り外します。

1. 左サイドカバー
2. ボルト



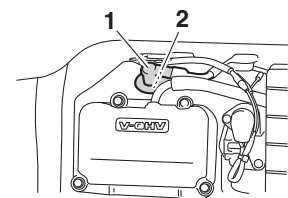
3. 左サイドカバーの下側を手前に引きます。その後、左サイドカバーを引き下げて、車体のラバーグロメットから上部突起を引き抜きます。

1. 左サイドカバー
2. 突起

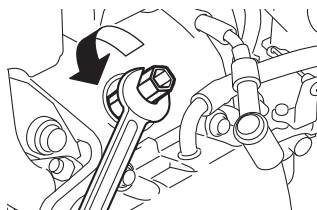


4. スパークプラグキャップを取り外します。

1. スパークプラグキャップ
2. スパークプラグ



5. プラグラレンチを使ってスパークプラグを取り外します。

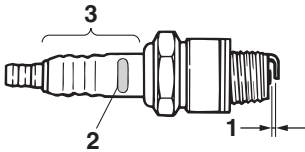


要 点

この工具は同梱しておりません。必要な場合はお客様ご自身でご準備いただくか、整備店へご依頼ください。

6. スパークプラグの焼け具合を点検します。通常はキツネ色に焼けますが、黒くくすぶっていたり白く焼けすぎているときは、ヤマハ販売店に相談してください。

7. プラグクリーナーもしくはワイヤブラシを使用し、電極付近の汚れ（カーボン）を落とします。
8. スパークプラグ識別番号とプラグギャップを点検します。



1. プラグギャップ
2. スパークプラグ識別番号
3. ガイシ

スパークプラグ識別番号：

NGK BPR4ES

プラグギャップ：

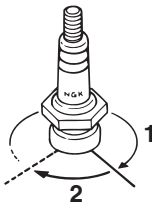
0.7 ~ 0.8 mm

9. スパークプラグを取り付けます。

締付トルク：

スパークプラグ：

20 N·m (2.0 kgf·m)



要 点

スパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できないときは、スパークプラグを指でいっぱいまで締め込んだ後、プラグレンチを使ってさらに 1 / 4 ~ 1 / 2 回転締め込んでください。できるだけ早い時期にトルクレンチを使って、正規のトルクで締めてください。

1. 指締め
2. 増し締め

10. スパークプラグキャップを取り付けます。

11. 突起を車体のラバーグロメットに差し込み、左サイドカバーを元の位置に取り付けます。その後、ボルトを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締付トルク：

左サイドカバー取付ボルト：

10 N·m (1.0 kgf·m)

フューエルストレーナの清掃

⚠ 危険

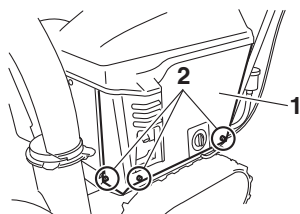
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。ガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 作業中はタバコを吸わないでください。
また、他の火気を近づけないでください。
- 作業前は、本機の金属部分に触れるなどして身体に帯電した静電気を除去してください。

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。

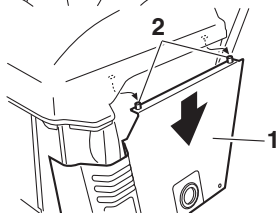
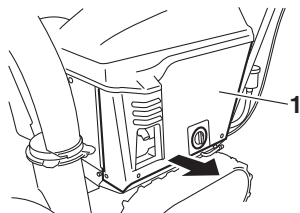
2. ボルトを取り外します。

1. 左サイドカバー
2. ボルト



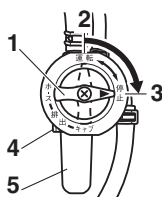
3. 左サイドカバーの下側を手前に引きます。その後、左サイドカバーを引き下げて、車体のラバーグロメットから上部突起を引き抜きます。

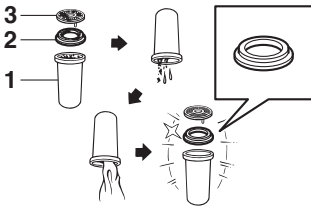
1. 左サイドカバー
2. 突起



4. 燃料コックレバーを“停止”位置にします。

1. 燃料コックレバー
2. “運転”
3. “停止”
4. ナットリング
5. ストレーナカップ





5. ナットリングを取り外し、ストレーナカップ、ガasket、ストレーナを取り外します。
6. ストレーナカップとストレーナを清掃し、ガソリンで洗浄します。

1. ストレーナカップ
2. ガasket
3. ストレーナ

7. ガasketを点検し、破損や膨潤している場合は新品と交換します。
8. ストレーナ、ガasket、ストレーナカップ、ナットリングを取り付け、ナットリングを締め付けます。

警告

取り付けは、注意深く行ってください。取り付けが悪いと燃料漏れをおこし、火災や爆発の原因になるおそれがあります。

要 点

ガasketは図の向きにして取り付けます。

9. 取り付け後、燃料コックレバーを“運転”位置に回して燃料漏れがないことを確認します。
10. 突起を車体のラバーグロメットに差し込み、左サイドカバーを元の位置に取り付けます。その後、ボルトを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締め付トルク：

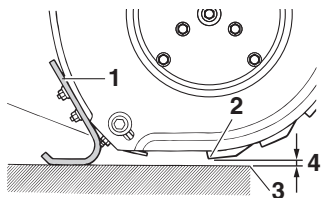
左サイドカバー取付ボルト：
10 N·m (1.0 kgf·m)

スキッドの調整

警告

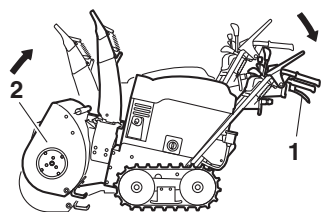
除雪機を平坦な場所で水平な状態にしてください。

路面の状態に合わせて、路面とオーガ先端とのすき間の調整をします。

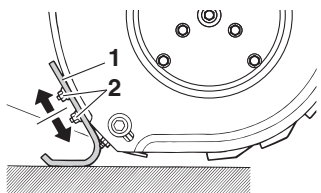


1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. 路面とオーガ先端とのすき間を点検します。
 1. スキッド
 2. オーガ先端
 3. 路面
 4. すき間

	路面とオーガ先端のすき間
工場出荷時 (標準位置)	5 mm
コンクリート、 アスファルト路	小さくする
小石路、砂利道	大きくする



3. オーガハウジング高さ調整レバーで、オーガハウジングを浮かせます。
 1. オーガハウジング高さ調整レバー
 2. オーガハウジング



4. スキッド取付ナットをゆるめます。
 1. スキッド
 2. ナット
5. スキッドを上下に動かして高さを調整し、スキッド取付ナットを仮締めします。
6. オーガハウジング高さ調整レバーでオーガハウジングを路面に接地させます。
7. 路面とオーガ先端とのすき間を点検します。

警告

路面とオーガ先端のすき間を小さくしすぎると、オーガの回転が路面に伝わり、除雪機が前に進むことがあります。

注意

路面とオーガ先端のすき間を小さくし過ぎると、オーガの摩耗が早くなったり路面を傷付けたりすることがあります。

要点

- 左右のスキッドの高さが均等になるように調整してください。
- スキッドは消耗品となります。交換時期は、ヤマハ販売店に相談してください。

8. スキッド取付ナットを確実に締め付けます。**締付トルク：**

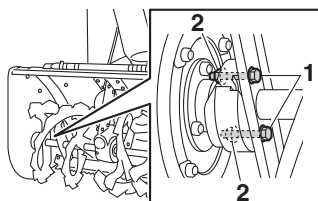
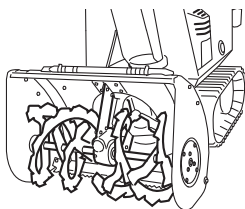
スキッド取付ナット：
16 N·m (1.6 kgf·m)

オーガシャーボルトの交換**⚠ 危険**

- インペラ、オーガ回転中は中をのぞいたり、手を入れたりしないでください。
- 回転部に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜き、各部が完全に停止してからスノーバー（雪かき棒）を使用して行ってください。

⚠ 警告

- 除雪機を平坦な場所で水平な状態にしてください。
 - 手袋をはめて作業を行ってください。
1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。



2. オーガハウジング内の雪、異物などを必ずスノーバー（雪かき棒）で取り除きます。

3. ロックナットを取り外し、シャーボルトを取り外します。

1. シャーボルト
2. ロックナット

4. 新しいシャーボルトとロックナットに交換します。

5. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

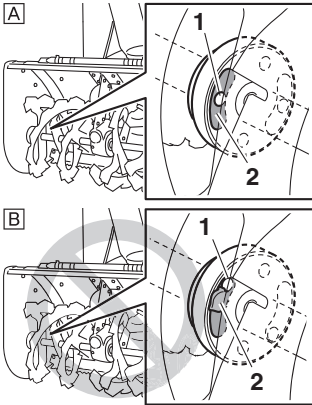
締付トルク：

ロックナット：

10 N·m (1.0 kgf·m)

推奨工具：

メガネレンチ (10 mm) ×2 本

**注意**

- 衝撃がダンパーへ繰り返し伝わることにより、ダンパーは消耗が進みシャーボルトガードの外へはみ出してきます。シャーボルトガードの外へのダンパーのはみ出し、またはシャーボルトガードピンの位置を目視で確認してください。図で示すようにシャーボルトガードピンがダンパーの中心からずれたときがダンパーの交換時期となります。ヤマハ販売店に部品交換を依頼してください。
- ダンパーがシャーボルトガードの外へはみ出したまま使用し続けるとシャーボルトが折損するおそれがあります。

Ⓐ 通常時

Ⓑ 交換時

1. シャーボルトガードピン
2. ダンパー

要点

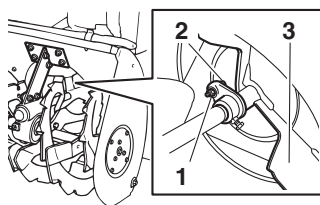
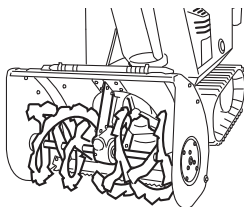
- シャーボルトはしっかり締め付けてください。シャーボルトの締め付けが不十分ですと、シャーボルトが損傷しやすくなります。
- シャーボルトは純正部品をご使用ください。(2-27ページ参照)
- オーガのシャーボルト (95822-06035)、ロックナット (95602-06200) は各 2 個ずつ同梱してあります。

インペラシャーボルトの交換**⚠ 危険**

- インペラ、オーガ回転中は中をのぞいたり、手を入れたりしないでください。
- 回転部に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜き、各部が完全に停止してからスノーバー（雪かき棒）を使用して行ってください。

警告

- 除雪機を平坦な場所で水平な状態にしてください。
- 手袋をはめて作業を行ってください。



1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. オーガハウジング内の雪、異物などを必ずスノーバー（雪かき棒）で取り除きます。
3. ロックナットを取り外し、シャーボルトを取り外します。
 1. ロックナット
 2. シャーボルト
 3. インペラ
4. 新しいシャーボルトとロックナットに交換します。
5. シャーボルトを取り付け、規定のトルクでロックナットを締め付けます。

締付トルク：

ロックナット：
10 N·m (1.0 kgf·m)

要 点

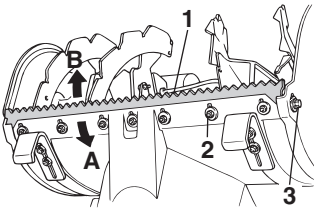
- シャーボルトはしっかり締め付けてください。シャーボルトの締め付けが不十分ですと、シャーボルトが損傷しやすくなります。
- シャーボルトは純正部品をご使用ください。(2-27ページ参照)

スクレーパの調整

警告

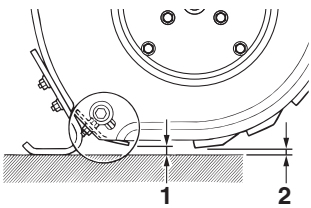
除雪機を平坦な場所で水平な状態にしてください。

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. ナット（7個）をゆるめます。
3. ボルト（2本）をゆるめます。（左右1本）



1. スクレーパ
2. ナット
3. ボルト

4. スクレーパを動かし、路面とのすき間を調整します。



	すき間
A 方向	大きくなる
B 方向	小さくなる

1. スクレーパのすき間
2. オーガ先端のすき間

要 点

- スクレーパと路面とのすき間は、オーガ先端のすき間と同じか、大きくなるように調整してください。
- スクレーパは消耗品となります。交換時期は、ヤマハ販売店に相談してください。

5. ナット、ボルトを締め付けます。

締付トルク：

ナット：

9 N·m (0.9 kgf·m)

ボルト：

25 N·m (2.5 kgf·m)

要 点

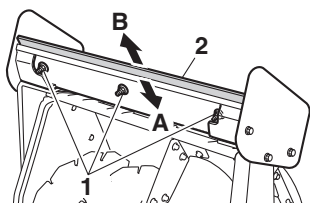
スクレーパは水平になるようにして締め付けてください。

**オプションブレードのスクレーパの調整
(YSF860B/YSF1070TB)**

除雪する路面の状態に合わせて調整します。

警告

除雪機を平坦な場所で水平な状態にしてください。



1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. オプションブレード下部のナット (3 個) をゆるめます。
 1. ナット
3. スクレーパを動かし、路面とのすき間を調整します。
 2. スクレーパ

	すき間
A 方向	大きくなる
B 方向	小さくなる

4. ナットを締め付けます。

締付トルク：
ナット：
25 N·m (2.5 kgf·m)

要 点

スクレーパは水平になるようにして締め付けてください。

トラック(クローラ)の張りの点検と調整

トラック(クローラ)の張りが適正か点検します。
 トラック(クローラ)の張りが適正でないとスリップ
 やトラック(クローラ)の外れなどの原因になります
 ので、規定量から外れているときは調整してください。

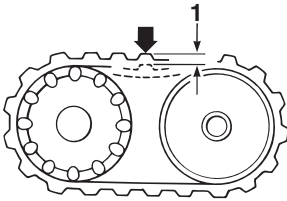
警告

除雪機を平坦な場所で水平な状態にしてください。

点検のしかた

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. トラック(クローラ)の中心部を手で押し(5 kgf程度
 の力)、たわみ量を点検します。

1. たわみ



たわみ規定量：

11 ~ 16 mm / 5 kgf

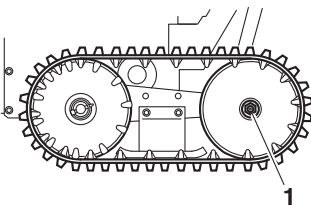
要 点

トラック(クローラ)の摩耗、傷の点検も同時に行っ
 てください。

調整のしかた

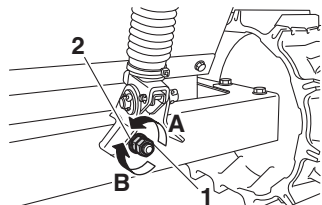
1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. 左右のホイールナットをゆるめます。

1. ホイールナット

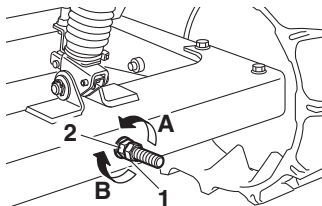


点検と整備

YSF860/YSF860B/YSF1070



YSF1070T/YSF1070TB



3. ロックナットをゆるめ、アジャストナットで張りを調整します。

1. ロックナット
2. アジャストナット

	張り
A 方向	ゆるくなる
B 方向	きつくなる

要 点

アジャストナットは中央 1 ケ所にあります。

4. ロックナットとホイールナットを締め付けます。

締付トルク：

ロックナット：

31 N·m (3.1 kgf·m)

ホイールナット：

66 N·m (6.6 kgf·m)

バッテリー液の点検

警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパーク、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚・目・衣服に付着すると、重大な傷害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

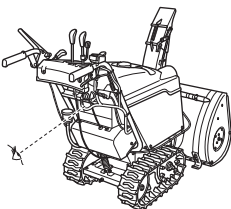
要点

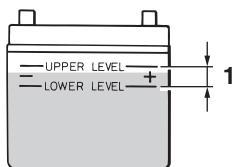
定期的（6 ヶ月ごと）に比重（1.28 以上）を測定し、バッテリーの状態を確認してください。

警告

除雪機を平坦な場所で水平な状態にしてください。

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
2. 車体後方からバッテリーの液面が基準レベル内にあるか点検します。





1. 基準レベル

- 液面が基準レベルより下がっている場合は蒸留水の補給をヤマハ販売店にご依頼ください。

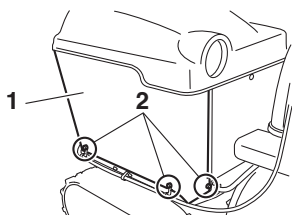
ヒューズの交換

注意

- 容量の違うヒューズやヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 指定容量を超えるヒューズを使用すると配線の過熱、焼損の原因になりますので、絶対に使用しないでください。
- 洗車時、ヒューズまわりに水を強く吹き付けることは避けてください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。

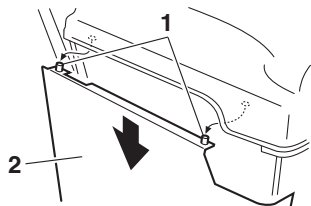
- エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。
- ボルトを取り外します。

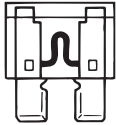
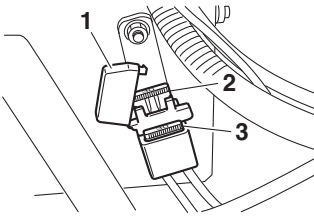
- 右サイドカバー
- ボルト



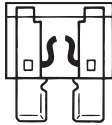
- 右サイドカバーを引き下げて、車体のラバーグロメットから上部突起を引き抜きます。

- 突起
- 右サイドカバー





4



5

4. 破損したヒューズを取り外し、予備ヒューズと交換します。

1. ヒューズカバー
2. ヒューズ
3. 予備ヒューズ
4. 良品
5. 破損品

容量：

30 A (ブレード型)

要 点

ヒューズを交換してもすぐ切れる場合は、他の部品に不具合があります。ヤマハ販売店に相談してください。

5. 突起を車体のラバーグロメットに差し込み、右サイドカバーを元の位置に取り付けます。その後、ボルトを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締付トルク：

右サイドカバー取付ボルト：
10 N·m (1.0 kgf·m)

スプロケットピンの交換

走行中に路面の凹凸や溝にトラック（クローラ）がはさまり込んだときなど、万一駆動系に過剰な負荷がかかった場合、スプロケットピンが折れて車体内部を保護します。

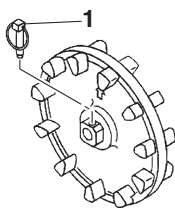
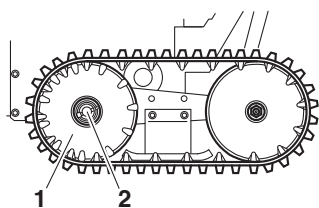
スプロケットピンが折損した場合は交換してください。



警告

除雪機を平坦な場所で水平な状態にしてください。

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。



2. スプロケットホイール、シャフト内に折れたスプロケットピンが残っている場合は取り除きます。

1. スプロケットホイール
2. シャフト

3. 新しいスプロケットピンを取り付けます。

1. スプロケットピン

注意

- スプロケットピンはハンマーで叩かないでください。ピンを破損するおそれがあります。
- 取り付けたスプロケットピンのリングは、脱落しないように必ず折りたたんでください。

要点

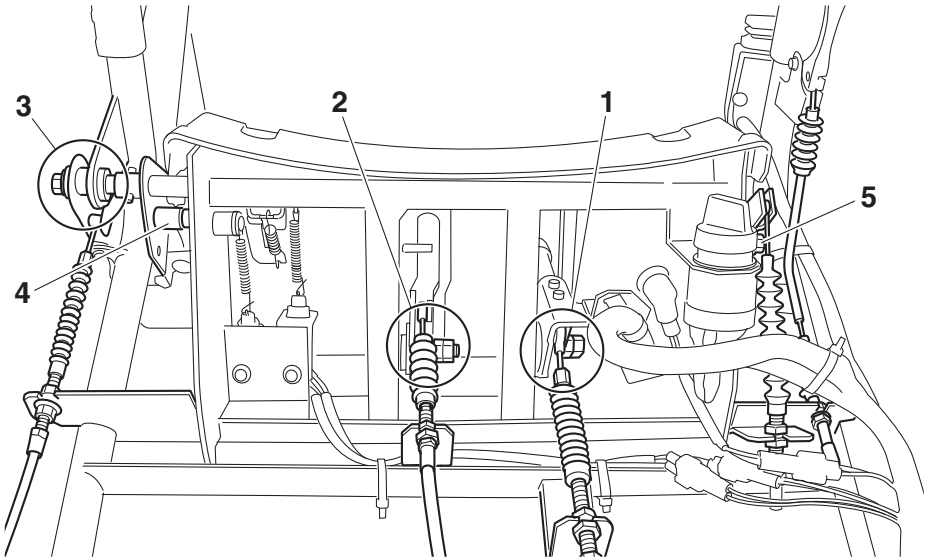
交換部品は純正部品をご使用ください。

各部の給油

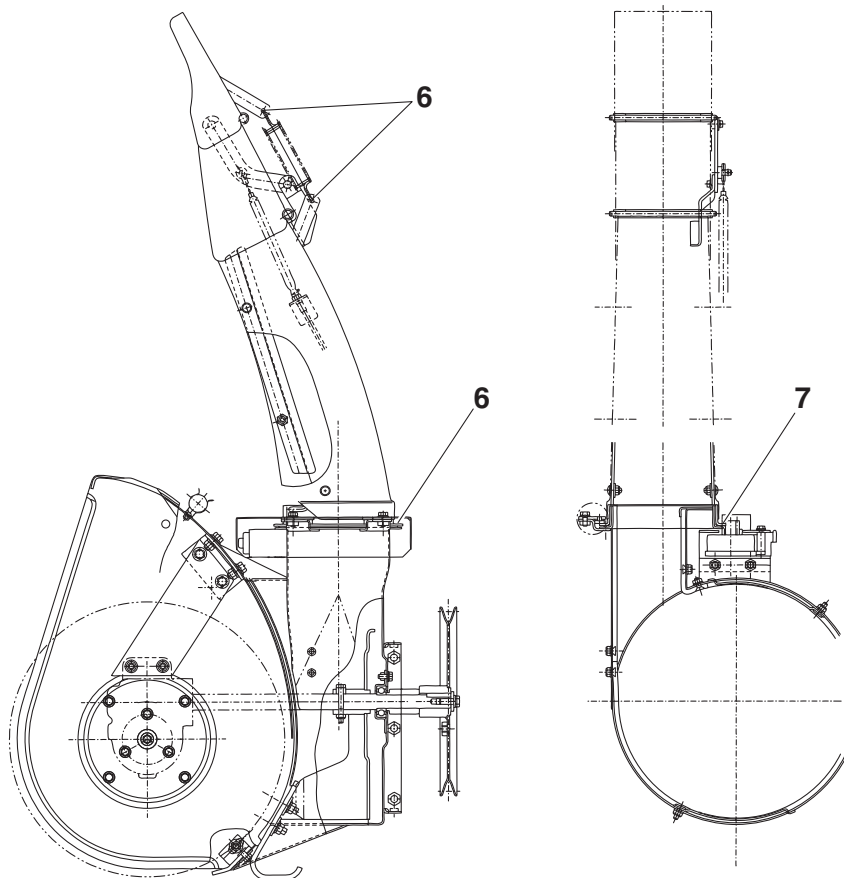
ご使用 1 ヶ月または 10 時間ごとに、各操作部の軸部にグリスまたはガソリンエンジンオイル（SAE 5W-30）を給油してください。

要 点

ご使用 1 ヶ月または 10 時間とは、「1 日 20 分間の運転で 30 日間の使用」を目安としてください。



- シュータデフレクタ調整レバー可動部 “1”
- 変速レバー可動部 “2”
- 走行クラッチレバー可動部 “3”
- オーガクラッチレバー可動部 “4”
- スロットルレバー可動部 “5”



- シュータアッセンブリ可動部 “6”
- シュータモータギヤとリングギヤ部 “7”

短期保管・長期保管

短期保管・長期保管時の点検整備は、お買いあげのヤマハ販売店に相談してください。
ご自身で実施する場合は、ガソリンの取り扱いに注意して次の手順で実施してください。

危険

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。ガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 作業中はタバコを吸わないでください。
また、他の火気を近づけないでください。
- 作業前は、本機の金属部分に触れるなどして身体に帯電した静電気を除去してください。

警告

- ガソリンの取扱いは、換気のよい場所でエンジンを停止してから行ってください。
- 燃料タンクキャップは確実に閉めてください。
- ガソリンを飲み込んだり、ガソリン蒸気を吸い込んだり、またはガソリンが目に入ったりした場合は、ただちに医師の診断を受けてください。
- ガソリンが皮膚や衣類にこぼれた場合は、ただちに石鹸と水で洗い、衣類は取り替えてください。

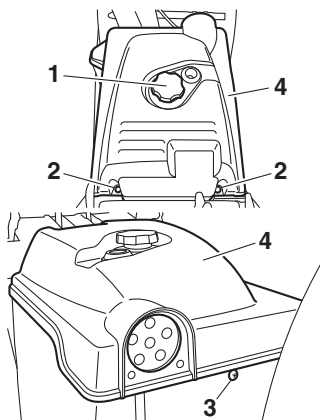
注意

- 燃料が変質してエンジンの始動が困難になる場合がありますので、燃料は抜いてください。
- こぼれたガソリンは、布きれなどできれいにふき取ってください。
- タンク内にゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

短期保管

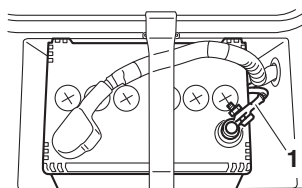
使用后、次回の使用までの期間が3ヶ月以上になる場合は、1～22の作業を行って保管し、次の使用に備えてください。

1. エンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜きます。



2. 燃料タンクキャップとボルト 1、2 を外し、トップカバーを取り外します。

1. 燃料タンクキャップ
2. ボルト 1
3. ボルト 2
4. トップカバー

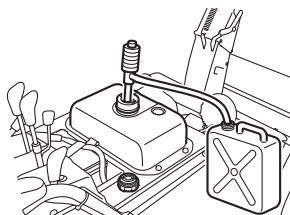


3. バッテリーの-（マイナス）リード線を外します。

1. -（マイナス）リード線

要 点

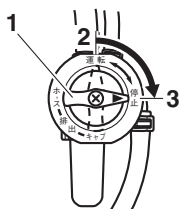
バッテリーの点検方法、補充電のしかたはヤマハ販売店に相談してください。



4. 燃料タンクストレーナを取り外し、市販のポンプを使用して燃料タンク内のガソリンを抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。

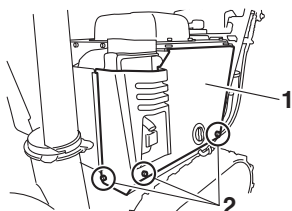
要 点

抜き取ったガソリンを受ける容器を用意してください。



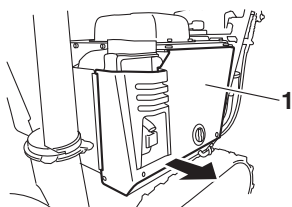
5. 燃料コックレバーを“運転”から“停止”位置にします。

1. 燃料コックレバー
2. “運転”
3. “停止”



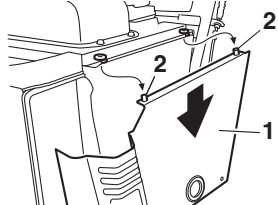
6. ボルトを取り外します。

1. 左サイドカバー
2. ボルト



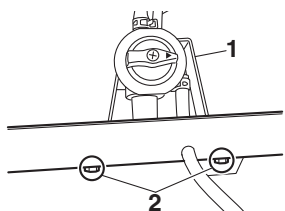
7. 左サイドカバーの下側を手前に引きます。その後、左サイドカバーを引き下げて、車体のラバーグロメットから上部突起を引き抜きます。

1. 左サイドカバー
2. 突起



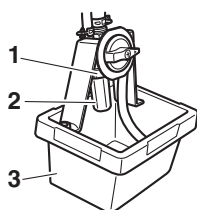
8. ブラケット取付ボルト (2 本) を外し、ブラケットを車体から取り外します。

1. ブラケット
2. ブラケット取付ボルト



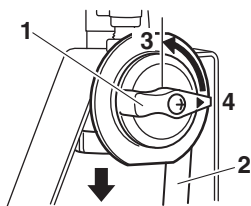
9. 排出するガソリンを受ける容器を燃料コックの下に用意し、燃料コックのナットリングを取り外してストレーナカップを外します。

1. ナットリング
2. ストレーナカップ
3. 容器



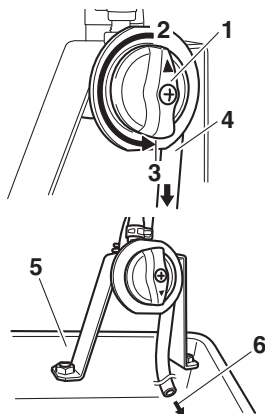
要 点

ナットリングがゆるみにくい場合は、レンチなどの工具でゆるめてください。



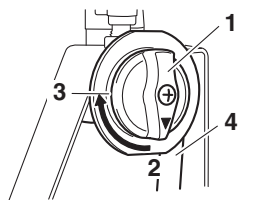
10. 燃料コックレバーを“停止”から“運転”位置にし、燃料タンク内に残っているガソリンを抜きます。

1. 燃料コックレバー
2. 排出パイプ
3. “運転”
4. “停止”



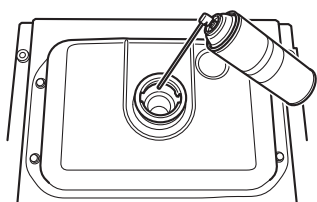
11. 燃料コックレバーを“運転”から“キャブ”位置にし、キャブレタ内のガソリンを排出パイプから抜きます。

1. 燃料コックレバー
2. “運転”
3. “キャブ”
4. 排出パイプ
5. 容器
6. 燃料の排出



12. 燃料コックレバーを“キャブ”から“ホース”位置にし、ホース内のガソリンを排出パイプから抜きます。

1. 燃料コックレバー
2. “キャブ”
3. “ホース”
4. 排出パイプ



13. 燃料タンク内の燃料をすべて抜き取った後に、防錆スプレーで燃料タンク内の防錆処理を行います。

14. トップカバーを元の位置に取り付けます。

15. 燃料タンクストレーナと燃料タンクキャップを確実に取り付けます。

16. ストレーナカップ、ナットリングを取り付けます。

17. 燃料コックレバーが“ホース”位置になっていることを確認します。
18. ブラケットを取り付け、ボルトで締め付けます。
19. 突起を車体のラバーグロメットに差し込み、左サイドカバーを元の位置に取り付けます。その後、ボルトを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

- ブラケット取付ボルト：
10 N·m (1.0 kgf·m)
- 左サイドカバー取付ボルト：
10 N·m (1.0 kgf·m)
- トップカバー取付ボルト 1：
4.3 N·m (0.43 kgf·m)
- トップカバー取付ボルト 2：
2.5 N·m (0.25 kgf·m)

20. 除雪機の外観やオーガ、シュータなどの雪や水は布きれなどでふき取ります。

要 点

除雪機本体に水分が残ると腐食の原因になります。

21. 除雪機各部を点検し、ボルトやナットにゆるみがある場合は、増し締めを行います。
22. 湿気の少ない換気のよい屋内に保管します。

注 意

除雪機にカバーなどを掛けるときは、エンジンやマフラーが十分に冷えてから掛けてください。

長期保管

長期間にわたって使用しない場合は、次のことを行って保管し、次の使用に備えてください。

1. 短期保管項目の 1 ～ 21 の作業を行います。
2. 各部をきれいに清掃して防錆処理をします。
3. 除雪機にカバーを掛け、湿気の少ない換気のよい屋内に保管します。

不具合時の対応

故障と対策

ここでは、想定できる原因と解決方法を示しています。
修理のご依頼がありましたら、ヤマハ販売店にお申しつけください。



除雪機が走行しない

部品	確認内容	処理内容	ページ
スプロケットピン	スプロケットピンの差し込み穴位置は合っていますか？	スプロケットピンの差し込み穴位置を確認します。	5-25

走行すると片側に曲がって走る

部品	確認内容	処理内容	ページ
スプロケットピン	スプロケットピンの差し込み穴位置は合っていますか？	スプロケットピンの差し込み穴位置を確認します。	5-25

エンジンが始動しない

部品	確認内容	処理内容	ページ
エンジンスイッチ	エンジンスイッチは“運転”の位置になっていますか？	エンジンスイッチを“運転”位置にします。エンジンスイッチを“始動”の位置まで回し、エンジンを始動します。	2-21, 4-1
	エンジンを始動させるとき、スタータモータを5秒以上回転させましたか？ エンジンが停止した状態で、長時間エンジンスイッチを“運転”の位置のままにしましたか？	バッテリーが十分に充電されていることを確認します。バッテリーが上がっているようでしたら、ヤマハ販売店で充電を依頼してください。	2-21
燃料コック	燃料コックレバーは“運転”の位置になっていますか？	燃料コックレバーを“運転”位置に回します。	2-25
スロットルレバー	“  ”の位置になっていますか？	“  ”の位置にします。	4-1
ヒューズ	ヒューズは切れていませんか？	ヒューズの切れを確認します。	5-24
バッテリー	バッテリー充電容量は適正ですか？	ヤマハ販売店にバッテリーの充電を依頼してください。	—

除雪または移動中にエンジンが途中で停止する

部品	確認内容	処理内容	ページ
燃料タンクキャップ	燃料タンクキャップ周辺に雪が溜まっていませんか？燃料タンクキャップを外したときにプシュッと音がしませんか？	燃料タンクキャップ周辺の雪や水を取り除きます。	2-25
除雪量	オーガハウジングでの処理量以上の除雪をしていませんか？	オーガハウジングの高さ以内の除雪量にします。	—

除雪中、突然、雪が飛ばなくなった

部品	確認内容	処理内容	ページ
オーガシャープボルト	オーガシャープボルトは折れていませんか？	オーガシャープボルトを交換します。	5-15
インペラシャープボルト	インペラシャープボルトは折れていませんか？	インペラシャープボルトを交換します。	5-17
シャープボルトガード	シャープボルトガード内部のダンパーがはみ出していませんか？ダンパーの強度限界を超えています。	ヤマハ販売店に部品交換を依頼してください。	—
シュータ	シュータ内に雪が詰まっている状態ではありませんか？	雪詰まりを除去します。	2-29
インペラ	インペラとハウジングインペラのすき間で凍結し回転しない状態にありますか？	凍結を除去します。	—

異音がる

部品	確認内容	処理内容	ページ
ベルト	ベルトが摩耗しすぎていませんか？	ヤマハ販売店に部品交換を依頼してください。	—

仕様諸元

YSF860

寸法・重量：	
全長	1474 mm
全高	1065 mm
全幅	620 mm
装備重量	158 kg
除雪性能：	
除雪幅	615 mm
除雪高さ	440 mm
除雪機構：	
除雪機構	2 ステージオーガプロア
シュータ回転角度	220°
走行機構：	
走行装置	エンドレスゴムクローラ
変速装置	HST
変速速度	
前進	0 ~ 2.6 km/h
後進	0 ~ 1.6 km/h
原動機：	
エンジン種類	空冷 4 ストローク傾斜型 OHV 単気筒ガソリン
総排気量	296 cm ³
ネット出力	6.8 kW (9.3 PS) /3400 r/min*
指定燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量	6.7 L
潤滑方式	強制飛沫式
始動方式	セルモータ
サービスデータ：	
エンジンオイル	4 ストロークガソリンエンジンオイル SAE 5W-30 SE 級以上
エンジンオイル容量	1.0 L (1000 cm ³)
変速機 (HST) オイル	ディーゼルエンジンオイル SAE 10W-30 CD 級以上
変速機 (HST) オイル容量	0.92 L (920 cm ³)
スパークプラグ	BPR4ES (NGK)
スパークプラグギャップ	0.7 ~ 0.8 mm
ウォームケースオイル	10W-30
ウォームケースオイル容量	0.07 L (70 cm ³)
バッテリー形式	40B19R

仕様諸元

バッテリー容量	12 V, 27 Ah
トラック（クローラ）の張り具合	5 kgf の力で押して 11 ~ 16 mm
オーガ用 V ベルト	BANDO W800 SB-41 またはミツボシ LB-41 スーパー AG-X
走行用 V ベルト	BANDO レッド SA-33 またはミツボシ LA-33 オレンジ
作業灯	12 V, 6 W

この仕様諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

* 仕様諸元表に表示した出力は、回転数 3400 r/min での代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる場合があります。除雪機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境やその他の条件により変化します。

仕様諸元**YSF860B**

寸法・重量：	
全長	1474 mm
全長（オプションブレード使用時）	1804 mm
全高	1065 mm
全幅	675 mm
装備重量	169 kg
除雪性能：	
除雪幅	615 mm
除雪幅（オプションブレード使用時）	670 mm
除雪高さ	440 mm
除雪高さ（オプションブレード使用時）	220 mm
除雪機構：	
除雪機構	2 ステージオーガプロア
シュータ回転角度	220°
走行機構：	
走行装置	エンドレスゴムクローラ
変速装置	HST
変速速度	
前進	0 ~ 2.6 km/h
後進	0 ~ 1.6 km/h
原動機：	
エンジン種類	空冷 4 ストローク傾斜型 OHV 単気筒ガソリン
総排気量	296 cm ³
ネット出力	6.8 kW (9.3 PS) /3400 r/min*
指定燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量	6.7 L
潤滑方式	強制飛沫式
始動方式	セルモータ
サービスデータ：	
エンジンオイル	4 ストロークガソリンエンジンオイル SAE 5W-30 SE 級以上
エンジンオイル容量	1.0 L (1000 cm ³)
変速機 (HST) オイル	ディーゼルエンジンオイル SAE 10W-30 CD 級以上
変速機 (HST) オイル容量	0.92 L (920 cm ³)
スパークプラグ	BPR4ES (NGK)

仕様諸元

スパークプラグギャップ	0.7 ~ 0.8 mm
ウォームケースオイル	10W-30
ウォームケースオイル容量	0.07 L (70 cm ³)
バッテリー形式	40B19R
バッテリー容量	12 V, 27 Ah
トラック (クローラ) の張り具合	5 kgf の力で押して 11 ~ 16 mm
オーガ用 V ベルト	BANDO W800 SB-41 またはミツボシ LB-41 スーパー AG-X
走行用 V ベルト	BANDO レッド SA-33 またはミツボシ LA-33 オレンジ
作業灯	12 V, 6 W

この仕様諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

* 仕様諸元表に表示した出力は、回転数 3400 r/min での代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる場合があります。除雪機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境やその他の条件により変化します。

仕様諸元

YSF1070

寸法・重量：	
全長	1513 mm
全高	1105 mm
全幅	730 mm
装備重量	162 kg
除雪性能：	
除雪幅	715 mm
除雪高さ	510 mm
除雪機構：	
除雪機構	2 ステージオーガプロア
シュータ回転角度	220°
走行機構：	
走行装置	エンドレスゴムクローラ
変速装置	HST
変速速度	
前進	0 ~ 2.8 km/h
後進	0 ~ 1.8 km/h
原動機：	
エンジン種類	空冷 4 ストローク傾斜型 OHV 単気筒ガソリン
総排気量	296 cm ³
ネット出力	6.9 kW (9.4 PS) /3600 r/min*
指定燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量	6.7 L
潤滑方式	強制飛沫式
始動方式	セルモータ
サービスデータ：	
エンジンオイル	4 ストロークガソリンエンジンオイル SAE 5W-30 SE 級以上
エンジンオイル容量	1.0 L (1000 cm ³)
変速機 (HST) オイル	ディーゼルエンジンオイル SAE 10W-30 CD 級以上
変速機 (HST) オイル容量	0.92 L (920 cm ³)
スパークプラグ	BPR4ES (NGK)
スパークプラグギャップ	0.7 ~ 0.8 mm
ウォームケースオイル	10W-30
ウォームケースオイル容量	0.07 L (70 cm ³)
バッテリー形式	40B19R
バッテリー容量	12 V, 27 Ah

トラック（クローラ）の張り具合	5 kgf の力で押して 11 ~ 16 mm
オーガ用 V ベルト	BANDO W800 SB-42 またはミツボシ LB-42 スーパー AG-X
走行用 V ベルト	BANDO レッド SA-33 またはミツボシ LA-33 オレンジ
作業灯	12 V, 6 W

この仕様諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

* 仕様諸元表に表示した出力は、回転数 3600 r/min での代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる場合があります。除雪機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境やその他の条件により変化します。

仕様諸元**YSF1070T**

寸法・重量：	
全長	1513 mm
全高	1105 mm
全幅	730 mm
装備重量	177 kg
除雪性能：	
除雪幅	715 mm
除雪高さ	510 mm
除雪機構：	
除雪機構	2 ステージオーガプロア
シュータ回転角度	220°
走行機構：	
走行装置	エンドレスゴムクローラ
変速装置	HST
変速速度	
前進	0 ~ 2.8 km/h
後進	0 ~ 1.8 km/h
原動機：	
エンジン種類	空冷 4 ストローク傾斜型 OHV 単気筒ガソリン
総排気量	296 cm ³
ネット出力	6.9 kW (9.4 PS) /3600 r/min*
指定燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量	6.7 L
潤滑方式	強制飛沫式
始動方式	セルモータ
サービスデータ：	
エンジンオイル	4 ストロークガソリンエンジンオイル SAE 5W-30 SE 級以上
エンジンオイル容量	1.0 L (1000 cm ³)
変速機 (HST) オイル	ディーゼルエンジンオイル SAE 10W-30 CD 級以上
変速機 (HST) オイル容量	0.92 L (920 cm ³)
スパークプラグ	BPR4ES (NGK)
スパークプラグギャップ	0.7 ~ 0.8 mm
ウォームケースオイル	10W-30
ウォームケースオイル容量	0.07 L (70 cm ³)
バッテリー形式	40B19R
バッテリー容量	12 V, 27 Ah

トラック（クローラ）の張り具合	5 kgf の力で押して 11 ~ 16 mm
オーガ用 V ベルト	BANDO W800 SB-42 またはミツボシ LB-42 スーパー AG-X
走行用 V ベルト	BANDO レッド SA-32 またはミツボシ LA-32 オレンジ
作業灯	12 V, 6 W

この仕様諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

* 仕様諸元表に表示した出力は、回転数 3600 r/min での代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる場合があります。除雪機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境やその他の条件により変化します。

仕様諸元

YSF1070TB

寸法・重量：	
全長	1513 mm
全長（オプションブレード使用時）	1838 mm
全高	1105 mm
全幅	780 mm
装備重量	190 kg
除雪性能：	
除雪幅	715 mm
除雪幅（オプションブレード使用時）	775 mm
除雪高さ	510 mm
除雪高さ（オプションブレード使用時）	220 mm
除雪機構：	
除雪機構	2 ステージオーガプロア
シュータ回転角度	220°
走行機構：	
走行装置	エンドレスゴムクローラ
変速装置	HST
変速速度	
前進	0 ~ 2.8 km/h
後進	0 ~ 1.8 km/h
原動機：	
エンジン種類	空冷 4 ストローク傾斜型 OHV 単気筒ガソリン
総排気量	296 cm ³
ネット出力	6.9 kW (9.4 PS) /3600 r/min*
指定燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量	6.7 L
潤滑方式	強制飛沫式
始動方式	セルモータ
サービスデータ：	
エンジンオイル	4 ストロークガソリンエンジンオイル SAE 5W-30 SE 級以上
エンジンオイル容量	1.0 L (1000 cm ³)
変速機 (HST) オイル	ディーゼルエンジンオイル SAE 10W-30 CD 級以上
変速機 (HST) オイル容量	0.92 L (920 cm ³)
スパークプラグ	BPR4ES (NGK)

仕様諸元

スパークプラグギャップ	0.7 ~ 0.8 mm
ウォームケースオイル	10W-30
ウォームケースオイル容量	0.07 L (70 cm ³)
バッテリー形式	40B19R
バッテリー容量	12 V, 27 Ah
トラック (クローラ) の張り具合	5 kgf の力で押して 11 ~ 16 mm
オーガ用 V ベルト	BANDO W800 SB-42 またはミツボシ LB-42 スーパー AG-X
走行用 V ベルト	BANDO レッド SA-32 またはミツボシ LA-32 オレンジ
作業灯	12 V, 6 W

この仕様諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

* 仕様諸元表に表示した出力は、回転数 3600 r/min での代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる場合があります。除雪機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境やその他の条件により変化します。

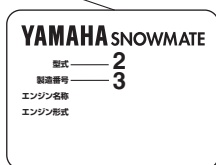
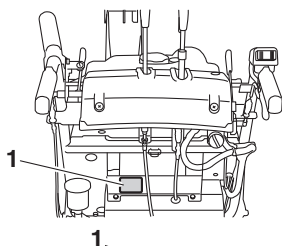
ユーザー情報

本体識別ラベル

型式、製造番号は問い合わせや部品を注文する際に使用します。

本体識別ラベルをご参照のうえ、型式、製造番号を下の欄に記入してください。

万一の盗難時のために型式、製造番号などは他の資料にも記録してください。



1. 本体識別ラベル
2. 型式
3. 製造番号

型式

製造番号

購入年月日

購入先

電話番号

お客様ご相談窓口のご案内

お買いあげいただきました除雪機に関してのお問い合わせは、ご購入いただいた販売店へお願いいたします。

お気軽にご用命ください。

転居などでご購入いただいた販売店へのご相談ができない場合は、ヤマハ除雪機販売店または<ご相談窓口>へお気軽にお申しつけください。

<ご相談窓口>

◆カスタマーコミュニケーションセンター

ヤマハ発動機株式会社
カスタマー コミュニケーション センター

〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500

 **0120-090-819**

受付時間 月曜～金曜

(祝日、弊社所定の休日等を除く)

9:00～12:00 13:00～17:00

- 土曜、日曜、祝日、年末年始は休業させていただきます。
その他夏期など休業させていただく場合があります。
- 区画整理、電話局の新增設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

2019年4月現在

索引 (さくいん)

あ	仕様諸元、YSF860	8-1	
安全のために必ず	仕様諸元、YSF860B	8-3	
守っていただきたいこと	使用前点検	3-1, 5-2	
い	除雪作業をするとき	4-5	
移動をするとき	除雪作業を停止するとき	4-10	
インペラシャープルトの交換	進行方向を変えるとき	(YSF1070T/YSF1070TB) 4-4	
う	す		
ウォームケースオイルの交換	スキッド	2-26	
え	スキッドの調整	5-13	
エンジンオイルの交換	スクレーパ	2-27	
エンジンオイルの点検	スクレーパの調整	5-19	
エンジンスイッチ	スタータモータの作動具合の点検	3-5	
エンジンのかかり具合および異音の	スノーバー (雪かき棒)	2-29	
点検	スパークプラグの点検・清掃	5-9	
エンジンの始動	スプロケットピンの交換	5-25	
エンジンの停止	スロットルレバー	2-22	
エンジンを停止して移動するとき	せ		
お	旋回スイッチ (YSF1070T/ YSF1070TB)	2-24	
オーガクラッチ、走行クラッチの	前日の作業で異常が認められた箇所の	点検	3-6
操作具合の点検	そ		
オーガクラッチレバー	走行クラッチレバー	2-24	
オーガシャープルトの交換	走行クラッチレバーと	オーガクラッチレバーの操作	4-9
オーガの点検	た		
オーガハウジング高さ調整レバー	短期保管	6-1	
オプションブレードの操作	ち		
(YSF860B/YSF1070TB)	長期保管	6-5	
オプションブレードのスクレーパの	調整のしかた	5-21	
調整 (YSF860B/YSF1070TB)	て		
オプションブレードのゆるみ、ガタの	定期点検	5-2	
点検 (YSF860B/YSF1070TB)	デッドマンクラッチ	4-8	
か	点検項目	5-3	
各部の給油	点検のおすすめ	5-1	
各部の取り扱い	点検のしかた	5-21	
各部の名称	と		
こ	トラック (クローラ) の張りの点検と	調整	5-21
故障と対策	ね		
さ	燃料コック	2-25	
サービスツール	燃料残量計	2-25	
作業灯	燃料タンクキャップ	2-25	
し	燃料の点検	3-2	
シャープルトガード	は		
シュータデフレクタ調整レバー	排気の状態の点検	3-6	
シュータの作動具合	バッテリー液の点検	5-23	
シュータ方向調整レバー			
重要ラベル			
仕様諸元、YSF1070			
仕様諸元、YSF1070T			
仕様諸元、YSF1070TB			

ハンドルのゆるみ、ガタの点検.....	3-5
ひ	
ヒューズの交換.....	5-24
ふ	
フューエルストレーナの清掃	5-12
へ	
変速機 (HST) オイルの点検	3-4
変速機 (HST) オイルの補給	5-8
変速レバー	2-22
ほ	
本体識別ラベル.....	9-1
ゆ	
油量警告灯	2-22





正しい操作で安全除雪

- 雪詰まりの際や点検・整備時は、必ずエンジンを停止させてから。
- 回転部・投雪部には手・足・顔などを絶対に近づけない。
- 投雪方向は人・窓・車など、常にまわりの状況を確認して。
- 早朝や深夜の除雪は、ご近所の迷惑を考えて。
- 燃料の取り扱いには充分なご注意を。

その他、ご使用になる前には必ず取扱説明書をよく読んで、安全で正しい操作を心がけましょう。

